STIHL MS 260

取扱説明書

目次

はじめに 2
使用上の注意および作業方法 2
カッティング アタッチメント 13
バーとチェンの取り付け （サイドチェン テンショナ） 13
バーとチェンの取り付け （クイックチェン テンショナ） 14
ソーチェンの張り方（サイドチェン テンショナ） 16
ソーチェンの張り方（クイックチェン テンショナ） 17
チェンの張り具合の点検 17
燃料 17
給油 19
チェン オイル 20
チェン オイルの給油 20
チェン オイルの吐出点検 21
チェン ブレーキ 21
冬季作業 22
電気ハンドル ヒーター 23
始動前の注意事項 24
エンジンの始動と停止 24
作業中の注意事項 27
オイル量の調節 28
ガイド バーの保守 28
エアー フィルター システム 29
エアーフィルターの掃除 29
キャブレターの調整 30
マフラーのスパーク アレスター スクリーン 31
触媒コンバータ 32
スパーク プラグの点検 32
スターター ロープとリワインド スプリングの交換 33
機械の保管 35
チェン スプロケットの点検と交換 35
ソーチェンの整備と目立て 36
整備表 40
磨耗の低減と損傷の回避 42
主要構成部品 43
技術仕様 44
特殊アクセサリー 45
スペア パーツのご注文 45
整備と修理 45
CE 適合証明書 46
品質証明書 46

お客様各位

この度はスチール社の製品をお買上げいただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な品質保証処置を施して製造されました。私共は、お客様がこの製品を支障なく使用され、その性能に満足していただくために最善の努力を尽くす所存でおります。

製品に関して御質問がおありの際は、お買上げの販売店あるいは直接当社カスタマー サービスにお問い合わせください。

Hans Peter Stihl

CE

元の取扱説明書
無塩素漂白紙使用
印刷インクには植物油が使用され、紙はリサイクル可能です。
© ANDREAS STIHL AG & Co. KG, 2008
0458-172-4321. M0-75.K8.Rei.
0000000222_002_J

STIHL®

はじめに

シンボル マークについて

マシンに表示されているシンボルマークは、本取扱説明書で説明されています。

段落の前に付いたシンボルや数字

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

そして、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

使用上の注意および作業方法

チェンソーは、斧やハンド ソーに比べて動作が高速になり、チェンが高速で回転し、カッターが極度に鋭利なため、チェンソーの使用の際は特別な安全に関する注意事項を守ってください。

特に重要なことは、初めて使用する前に取扱説明書を最後まで注意深く読み、必要なときに見られるように保管しておくことです。本取扱説明書に準拠していない操作をすると、重大な傷害や生命の危険にいたる事故を起こす恐れがあります。

事業主損害賠償保険協会、社会保障機関、労働安全基準局などの機関が規定した、貴国の安全規定を順守してください。

本機で初めて作業をする人は：販売員や専門家などに安全な使用方法を尋ねたり、トレーニングコースを受講したりしてください。

子どもには絶対にチェンソーを使用させないでください。16 歳以下の訓練生は、監督下で作業を進めるようにしてください。

子どもや見物人を近づけないでください。

機械を使用しない時は、他人に危険が及ばないよう横にして置いてください。本機は承認された人以外は使用しないでください。

他者またはその所有物に対して生じた事故または危険に関し、その一切の責任をユーザーが負います。

本機械の機種や操作に慣れた人にだけ貸与し、機械とともに取扱説明書も必ず渡してください。

本機を操作する人は、身体的・精神的に健康でなければなりません。激しい労働に耐えられない体調の方は、チェンソーの使用前にかかりつけの医師に相談してください。

ペースメーカーを付けている方にのみ該当する注意点：本機の点火システムは微量の電磁界を発生します。ペースメーカーの種類によっては影響を完全に排除できません。スチール社では、掛かりつけの医師およびペースメーカーの製造元に問い合せて、あらゆる健康上の障害について相談されることをお勧めします。

動作を鈍らせるようなアルコールや薬品などを服用した状態では、本機を使用しないでください。

気象条件が悪い場合（雨、雪、氷、風など）、作業を延期して、**危険性の高い状態を回避してください**

木や木製製品以外の素材を切断しないでください。

いかなる方法でも本機を改造しないでください。この場合も、突然の事故を起したり、機械を破損したりする恐れがあります。

当社が本機での使用を承認した、または技術的に同等の、ツール、ガイドバー、チェン、チェン スプロケット、またはアクセサリーだけをご使用ください。不明な場合は、販売店にお問い合わせください。高品質ツールやアク

セサリーだけをご使用ください。さもないと、事故や本機の破損の恐れがあります。

当社では、スチール純正のツール、ガイドバー、チェン、チェン スプロケット、およびアクセサリーだけをご使用いただきますようお勧めします。これらは、本製品に対しても、利用者のご要望に対しても、最適化されています。

衣服と装備

規定に沿った服装と装備を身に付けること。

作業着は丈夫なもので、身体に合い、作業しやすいことが最も重要です。上掛けのような、だぶだぶな上着ではなく、**切り傷防止用プロテクター付き**の身体にピッタリした作業衣を着用してください。

樹木、低木、機械の稼動部などに絡まってしまうような衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、宝石なども身に着けないでください。長い髪は束ねて、ハンカチ、キャップ、ヘルメットなどでカバーしてください。

切り傷防止用プロテクタ、滑らない靴底で爪先に鋼板の入った**安全靴**を履いてください。

物体が落下してきた場合のため、**安全ヘルメット**を着用してください。

安全ゴーグルまたは**顔面シールド**および「個人用」イヤープロテクタなどの**防音用耳栓**を着用してください。

しっかりとした手袋を着用してください。クロム革製が最適です。

スチールでは、防護のために各種の作業服や装備をご用意しています。

チェンソーの運搬

チェンソーを持ち運ぶときは、たとえすぐ近くまででであっても、常にチェンブレーキをかけ、チェン ガード（鞘）を装着してください。約 50 メートル以上の長距離でチェンソーを運搬する場合、エンジンも停止してください。

チェンソーはハンドル バーを持ち、熱くなったマフラーを身体から離し、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。マフラーの表面など、機械の熱くなっている部分に触れないようにしてください。**火傷の恐れがあります！**

乗り物で運搬する時：乗り物で運搬する時は、倒れたり、燃料が流れ出たり、破損したりしないよう適切に固定してください。

給油

ガソリンは非常に簡単に引火します。火気を近づけないでください。燃料をこぼしたり、喫煙しないでください。

燃料を給油する前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください。燃料が流れ出て**火災になることがあります！**

燃料タンクキャップは、燃料が噴き出さず圧力がゆっくりと抜けるように慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。本機に燃料をこぼしたら直ちにふき取ってください。衣服に燃料が付いた場合は、ただちに着替えてください。

機種により、様々なタンクキャップが出荷時に装着されています。

給油の後は、燃料キャップをできる限りしっかりと閉めてください。

ヒンジグリップ式燃料タンクキャップ（差し込みロック）は正しく差し込み、止まるまで回してからヒンジグリップを下ろしてください。

正しく締め付けられていない燃料キャップがエンジンの振動によって緩んで燃料が漏れる危険を低減します。

始動前

チェンが正しく取り付けられ、良好な状態になっているかチェックします（本取扱説明書の関連項目を参照）：

- チェンブレーキ、前ハンドガードが正常に作動するか
- ガイドバーは正しく装着されているか
- チェンの張りは適切か
- スロットル トリガーおよびびスロットル トリガー インターロックがスムーズに作動するか。スロットル トリガーは手を放したとき自動的にアイドリング位置に戻らなければなりません。
- マスター コントロール / 停止スイッチが、スムーズに STOP または 0 位置に移動できるか。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします。緩んでいる場合は火花が発生することがあり、漏れた混合燃料に**引火することがあります！**
- 運転装置と安全装置に改造を加えないでください
- 安全な操作のため、ハンドルはオイルや汚れのない、乾いた清潔な状態を保ちます。

正常に作動するチェンソーだけを使用してください。**事故の恐れがあります！**

エンジンの始動

機械の給油位置から最低 3 メートル以上は離れ、密閉された場所を避けてください。

本機は 1 人操作用です。作業地域に第三者が入らないようにしてください。本機械の始動時も同じです。

始動前にチェン ブレーキでチェンをロックします。チェンの回転により**人身事故**の恐れがあります。

チェンソーの落としがけをしないでください。取扱説明書に従って始動してください。

チェンが切り口にあるときは、チェンソーを始動しないでください。

作業中

差し迫った危険や緊急の場合、マスターコントロールかストップスイッチを 0 または STOP に動かして、速やかにエンジンを停止します。

本機を作動させたままで、本機から離れないでください。

エンジン運転中：スロットル トリガーを放しても、コースティング効果により チェンは短時間回転し続けます。

滑りやすい表面、水、雪、氷、急な斜面、でこぼこな地面、樹皮を剥がしたばかりの樹木の上では特に注意を払ってください。**滑る恐れがあります！**

切り株、根っこ、溝に注意します。**つまずく恐れがあります！**

足場は常に、しっかりと安全にしてください。

一人で作業しないこと。常に、事故があった場合に声を出せば、人が助けに来ることができる範囲内で作業してください。

防音用耳栓を付けている場合、より大きな注意が必要です。危険を告げる声（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなるからです。

過労や衰弱をさけるために適切な時間の休憩を取ってください。**事故の危険があります！**

木片、樹皮、乾燥した草木、燃料など燃えやすい素材から排気ガスや加熱されたマフラーを離してください。**火事の危険があります。**触媒コンバータ付きマフラーは特に高温になりがちです。

エンジン運転中は機械から有毒な排気ガスが出ます。このガスは、無臭で目に見えないことがあり、未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、窪地、あるいは狭い場所で作業する時は、十分な換気に配慮してください。**中毒による命の危険があります！**

気分が悪くなったり、頭痛、視界が狭くなるなど、視力の障害、聴力の障害、めまい、集中力の低下などを感じたら、即座に作業を停止してください。濃度の高い排気ガスを吸い込むことで、これらの症状が現れることがあります。**事故の恐れがあります！**

本機の使用時に発生する塵埃（おがくずなど）、ヒューム、煙は健康を害する恐れがあります。塵埃が発生する場合は、防塵マスクを着用してください。

作業中および本機の近くでの**喫煙は**避けてください。**火災の危険性があります！**燃料システムから、発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあることに、ご注意ください。

チェンソーに強い衝撃が加わったり落下するなど、所定の負荷を越える異常な負荷がかかった場合は、作業を続ける前にチェンソーが良好な状態にあることを常に確認してください。「始動前」の項を参照してください。給油システムに漏れがないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認します。チェンソーの動作状態が完全でない限り、絶対に継続して使用しないでください。不明な場合は、スチール販売店にお問い合わせください。

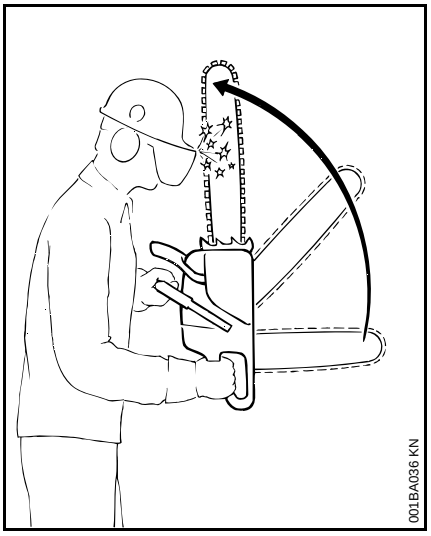
エンジンのアイドリング回転時に、チェンが回転しないことを確認してください。必要に応じて低速設定を修正してください。エンジンのアイドリング回転時に回転し続ける場合は、スチール サービス店にお問い合わせください。

反発力

キックバック、プッシュバック、プルインが最も一般的な反発力です。

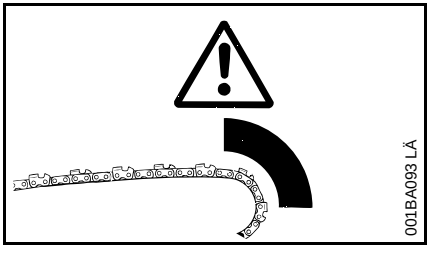
キックバックによる危険

キックバックによって重度の外傷を受ける場合があります。



キックバックとは、次のような場合にチェンソーが、突然コントロールできない状態で作業者に向かって、跳ね返ってくることを言います。

次のような場合にキックバックが発生しやすくなります。



- ガイドバーの先端上部 1/4 の部分で、不意に木あるいは何らかの固い物体に触れた場合、例えば切断中に他の木が不意に触れた場合など
- 切断中にチェンが、ガイドバーの先端部分で切り口に挟まれた場合

クイックストップ チェン ブレーキ：

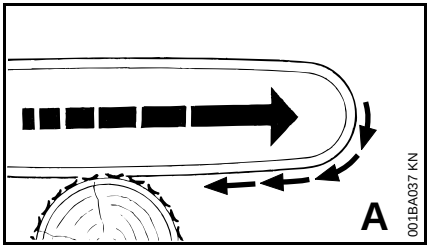
一定の状況下で、ケガの危険を低減します。キックバック自体を避けることはできません。チェン ブレーキを作動させるとチェンが瞬時に停止します。詳細は、この取扱説明書の「チェン ブレーキ」の項をお読みください。

キックバックの危険の低減

- 落ち着いて、入念に作業します。
- チェンソーを両手でしっかり持ち、グリップを確実に握ります。
- 常に最大出力で切断します。
- ガイドバーの先端の位置に、いつも注意を払うようにします。
- バーの先端で切らないでください。
- 細くて固い枝、低木群、下生えは特に注意してください。チェンに絡むことがあります。
- 決して一度に数本もの枝を切らないでください。
- 前に倒しすぎないでください。
- 肩の高さより上にあるものを、切断しないでください
- 途中まで切れている木を再度切るときは、十分注意してガイドバーを切り口に入れてください。
- 突っ込み切り作業は、慣れていない人には適していません。
- 木々の移動や外部の力によって、切断部分が閉じてチェンが挟まることがあるので、注意してください。

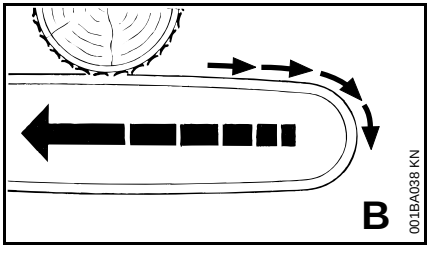
- 正しく目立てされ、正しく張られたチェンでのみ作業します。デプス量が大きすぎないように注意してください。
- キックバックを低減するソーチェンや先端の径が小さいガイドバーを使用してください。

プルイン (A)



上から下への玉切り時などの切断中に、チェンのガイドバーの下部が切り口に挟まれた場合、木々の異物に当たるか、挟まった場合、チェンソーが木材の方に向かって突然前方に引かれたりすることがあります。**これを避けるため、バンパー スパイクを木にしっかり当ててください。**

プッシュバック (B)



下から上への玉切り時などの切断中に、チェンのガイドバーの上部が切り口に挟まれた場合、木々の異物に当たるか、挟まった場合、チェンソーが作業者の方に向かって突然戻ってくることがあります。**これを避けるため、次のようにします。**

- ガイドバー上部が挟まらないように注意します。
- 切り口の中でガイドバーをねじらないでください。

次の場合には細心の注意を払ってください。

- 垂れ下がった枝
- 他の木々の間で張力がかかっている、突然倒れてくる可能性のある幹
- 防風林での作業

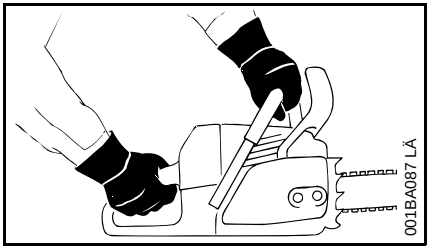
これらの場合、チェンソーを使用せずに、滑車装置、ケーブル ウインチ、牽引装置などを使用してください。

周囲に倒れ、切り込まれたままの幹を引き抜きます。できる限り広い空間で作業してください。

枯れ木（乾燥したり、朽ち果てたり、腐食している樹木）の切断は非常に危険です。危険を察知することは極端に難しく、回避も困難です。ウインチや牽引装置を使用して作業します。

最も注意すべきことは、**道路、線路、電線の近くに材木が倒れた場合です。**必要に応じて、警察、電力会社、鉄道会社に通知してください。

チェンソーの保持と操作



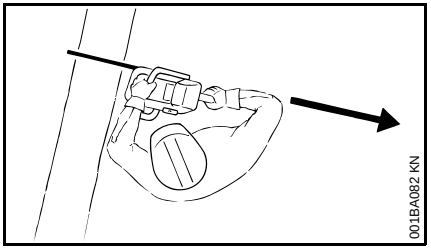
必ず**両手でしっかりと**チェンソーを保持してください。左利きの場合でも右手で後ハンドルを握ります。安全操作のため、ハンドル バーとハンドルをしっかり握ります。

チェンソーによる切断

始動スロットル位置で切断しないでください。このポジションでは、エンジンの回転数を調整できません。

良好な視界と照明を確保して、冷静に整然と作業を行ってください。他の人に危険が及ばないように、常に注意してください。

できる限り短いガイドバーを使用します：チェン、ガイドバーおよびチェンスプロケットが正しく組み合わされ、お使いのチェンソーに適合している必要があります。



ソーチェンの**移動範囲**の周囲から身体のいずれの部分も確実に離してください。

チェンソーを切り口から引き抜くときは、常にチェンを動かした状態で行ってください。

チェンソーを切断以外の、枝や根に穴をこじって開けたり、すくったりする作業に使用しないでください。

吊り下がっている枝を、下側から切断しないでください。

割れた木を切断するときは特に注意してください。**自分の方に破片が飛んできてケガをする危険があります。**

チェンソーが異物に触れないように注意してください：石材、クギなどが飛び散り、ソーチェンを損傷したり、ソーチェンが不意にキックバックすることがあります。

傾斜では、山側、幹や倒れた木側に立ちます。切り落とした幹が転がることに注意してください。

高所での作業時：

- 常にリフト バケットから作業します
- はしごに乗って作業しないでください
- 木に登って作業しないでください
- 不安定な位置で作業しないでください
- 肩の高さ以上で作業しないでください
- 片手作業はしないでください

フル スロットルで切断を開始して、バンパー スパイクをあてがって、ソーチェンを作動させます。

バンパー スパイクなしでチェンソーを使用しないでください。チェンソーが突然引き込まれることがあります。常にバンパー スパイクでしっかり固定します。

切断し終わると、機械は切り口の中のバー・チェンでは支持されません。本機の重量を作業者が支えている必要があります。**制御できなくなる危険があります。**

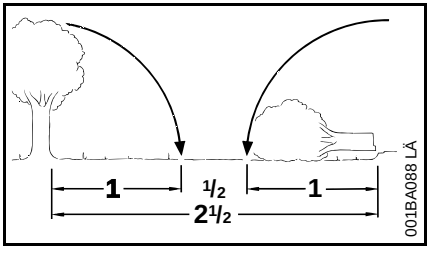
樹木の伐倒

特別なトレーニングを受講した作業者だけが伐倒を実施できます。チェンソーを使い慣れていない作業者は伐倒や枝払いをしないでください。**事故の危険性が増します！**

伐倒技術に関しては、国の規制に従ってください。

伐倒作業者だけが伐倒区域に入ってください。

伐倒で他の人が怪我しないようにしてください。エンジン音で叫び声が打ち消されてしまいます。



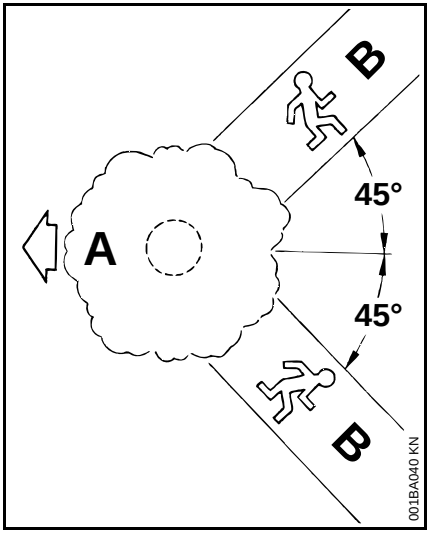
次に伐倒する樹木から最低でも 21/2 本分の距離は確保してください。

伐倒によって木が倒れる方向と、退避路を決定してください。

立ち木が倒れた時の空間を選択して確保してください。

次の点に特別な注意を払ってください：

- 自然に傾いている樹木
- 異常に枝が茂った樹木、非対称に成長した樹木、樹木の損傷
- 風向と風速に留意して、強風時には伐倒を中止してください
- 傾斜方向
- 密集した樹木
- 雪が積もっている木
- 一般的な樹木の状態を考慮して、幹の損傷または乾燥したり、腐食したり、朽ち果てている枯れ木には特別注意を払ってください。



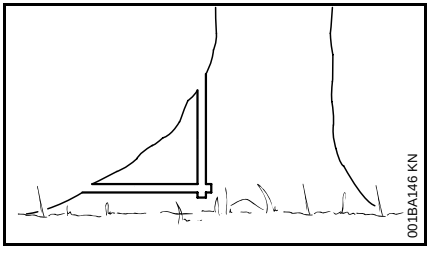
A　伐倒方向

B　退避路

- 作業者ごとに約 45 度後部に対称の位置を退避路として確保します。
- 退避路を掃除して、異物を排除します。
- ツールや装置を安全な距離に置き、退避路には置かないでください。
- 伐倒時に幹の倒れる脇にだけに立ち、退避路に添って後退します。
- 傾斜の場合、斜面に対して平行に退避路を設けます。
- 退避時に倒れる木の枝や先端に注意します。

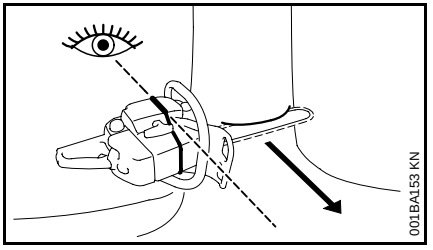
幹周辺の作業区域の準備

- 大枝、小枝など、幹周辺の作業地域を清掃して、すべての作業者にしっかりとした足場を確保します。
- 幹の根本の注意深い掃除
  軸などの幹周囲に、砂、石などの異物があるとソーチェンの性能を劣化させます。



- 板根を取り除きます。木が健全な状態な場合は、チェンソーを垂直、次に水平に移動して大きめな枝を先に取り除きます。

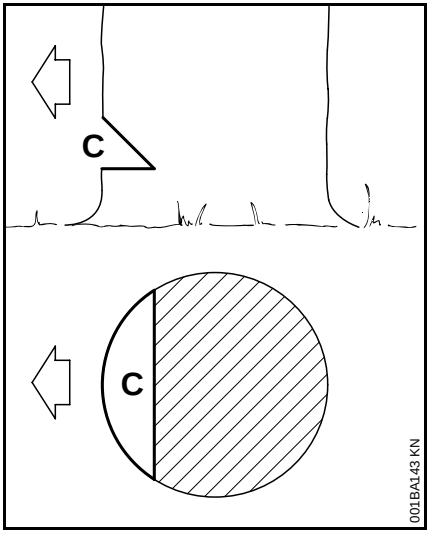
受け口の切り込み



チェンソーのシュラウドとファン ハウジングからの視角を利用して、受け口の切断時に木々の倒れる方向を確認できます。

受け口の切り込み時に、木が希望方向に正確に倒れるように、チェンソーを適正に伐採方向を目算できる位置に当てます。

水平切り込み、対角切り込みの順序は様々ありますが、伐倒技術は国の規則に準じてください。



受け口（C）で伐倒方向が決まります。

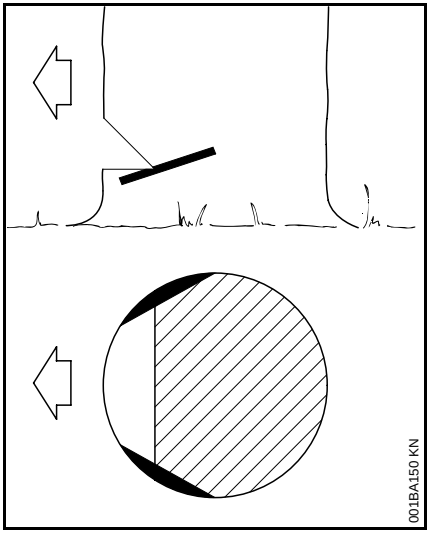
当社では次の手順をお勧めします：

- 木が倒れる方向を目算しながら、水平に切ります。
- 約 45 度で対称に切り込み開始します。
- 伐倒受け口を確認して、場合によっては修正します。

重要：

– 伐倒方向に直角の受け口
– できるだけ地面の近くに作成します。
– 幹の直径の 1/5 から 1/3 の深さに切り込む

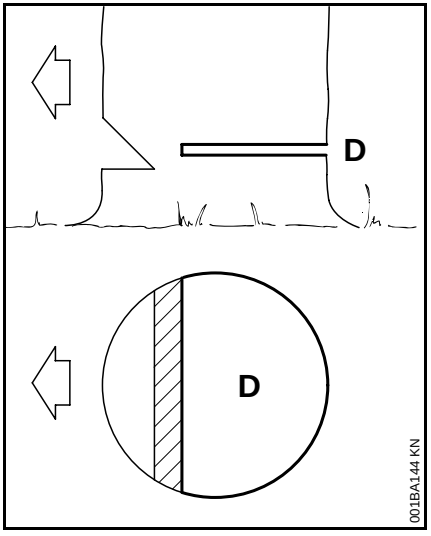
根張り切断



長い繊維を持った軟材を根張り切断すると、樹木が倒れるときに根張りが飛散せずにすみます。幹の両側に受け口底部と同じ高さで幹直径の約 1/10 の深さに、切り込みを入れます。ガイドバーの幅を超えないでください。

病気の木には根張り切断を使用しないでください。

伐倒

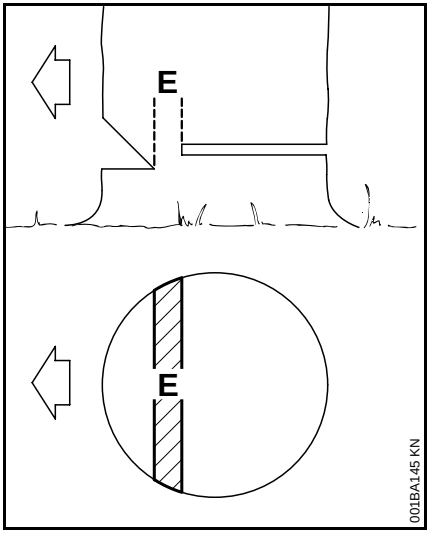


伐倒前に、大きな声で周囲に警告を発してください。

- 追い口（D）は受け口よりも若干高めの位置から切り始めます。

– 水平に切ります。
– 受け口と追い口の間を木の直径の約 1/10 ほどを、切断せずに残しておきます。これをつると言います。

楔を追い口に適時に差し込み、鉄製を除く木製、軽金属製、プラスチック製のいずれかの楔だけを使用します。鉄製楔はソーチェンを損傷して、キックバックする恐れがあります。

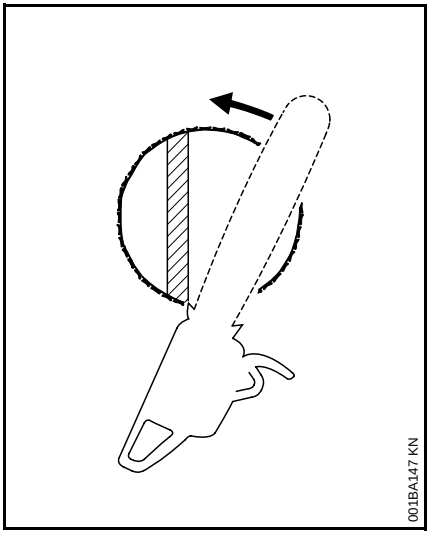


つる（E）は伐倒の際にちょうつがいのように作用して、木が倒れるのをコントロールする助けとなります。

– 伐倒中につるを切断しないでください。計画した方向以外の方向に木が倒れます。**事故の危険があります！**
– 腐っている樹木の場合は、つるを広く残します。

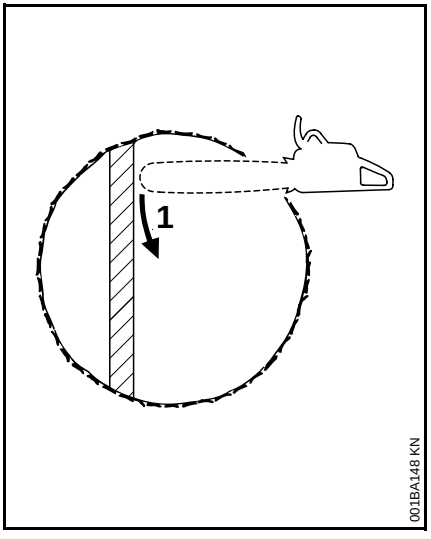
樹木が倒れる直前にもう一声、周囲に注意を喚起してください。

細い幹の場合：簡易ファンカット



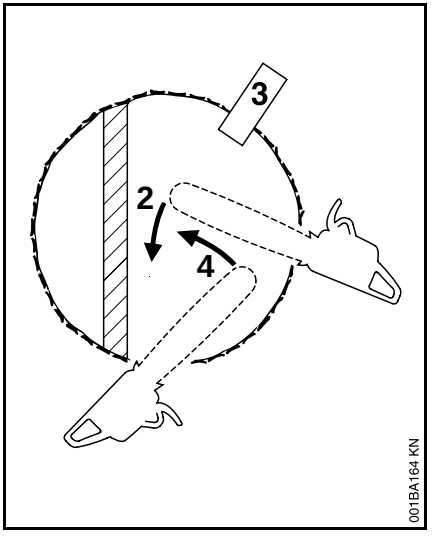
- つるの後ろにバンパー スパイクをあてて、この点を中心につるまで旋廻して切ります。バンパー スパイクが幹のまわりを回ります。

太い木の場合：区分切断法



チェンソー ガイドバーの長さを越えた幹直径には、区分切断法を使用します。

1. **最初の切り込み**
   ガイドバーの先端を蝶番後ろから木に差し込み、チェンソーを正確に水平に保持して、出来る限り回転させ、バンパー スパイクを支点に、チェンソーの位置を最小限度に移動します。



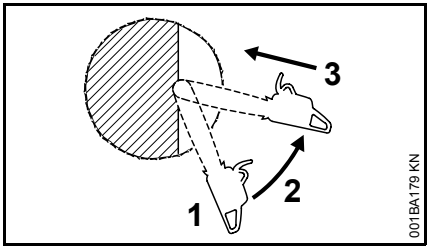
2. 次の切り込み用に位置を修正しているときに、ガイドバーを切り込みから離さず、切り込みにムラがないようにして、再びバンパー スパイクをあてがいます。
3. 楔 (3) の差し込み
4. 最後の切り込み：簡易ファンカットと同様にバンパー スパイクをあてがいます。つるを切断しないでください！

特別切り込み技術

突っ込み切りと心材切断は訓練を受講した、経験ある作業者のみが実施できます。

突っ込み切り

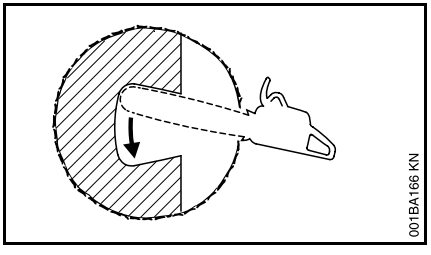
- 傾いた木の伐倒
- 玉切り時の負荷軽減カット
- DYI 作業



- キックバックの少ないチェンを使用して、特に慎重に作業します。

1. ガイドバー上部ではなく下部先をあてがって、切断を開始します。**キックバックの恐れがあります！** 切り目の深さがガイドバー幅の 2 倍になるまで切り込みます。
2. 突っ込み切り位置に差し込みます。**キックバックやプッシュバックの恐れがあります！**
3. 慎重に突っ込み切りを行います。**プッシュバックの恐れがあります！**

心材切断



- 幹の直径がガイドバーの長さの2倍を超える場合
- 太い樹木で心材の大半が切断されていない場合。
- 伐倒が難しいカシやブナなどを、心材が裂けずに、計画した方向に伐倒する場合。
- 柔らかめの木の場合、水平方向の幹の張力を緩め、幹の散乱を防く必要があります
- 慎重に受け口への突っ込み切りを行います。**プッシュバックの恐れがあります！**矢印方向に回転します。

枝払い

特別なトレーニングを受講した作業者だけが枝払いを実施できます。チェンソーを使い慣れていない作業者は、伐倒や枝払いをしないでください。**事故の危険性があります！**

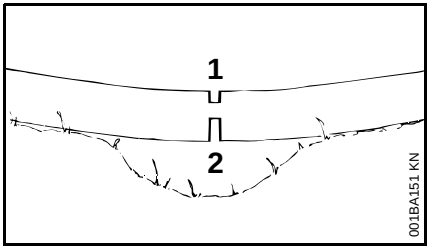
- キックバックの危険度が低いソーチェンを使用します。
- できるだけチェンソーをしっかりと保持します。
- 枝払い時に幹に深く切り込まないようにします。
- バーの先端で切らないでください。
- 張力のかかっている枝に注意してください。
- 決して一度に数本もの枝を切らないでください。

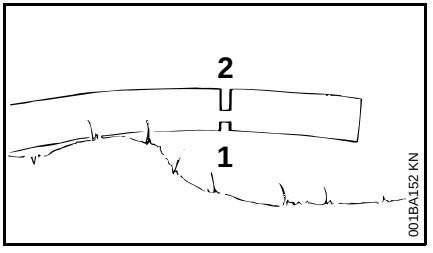
小枝払い

- 頑強で安定したサポートとして木びき台を使用します。
- 木の位置を保持するために足で抑えないでください。
- 他の人に木を保持させるなど、作業を手伝わせないでください。

張力がかかった状態で横たわった、あるいは立っている木の切断

最初に圧縮された側 (1)、次に張力がある側 (2) の正しい順序で切断して、キックバックや挟まる危険性を回避します。**怪我の恐れがあります！**



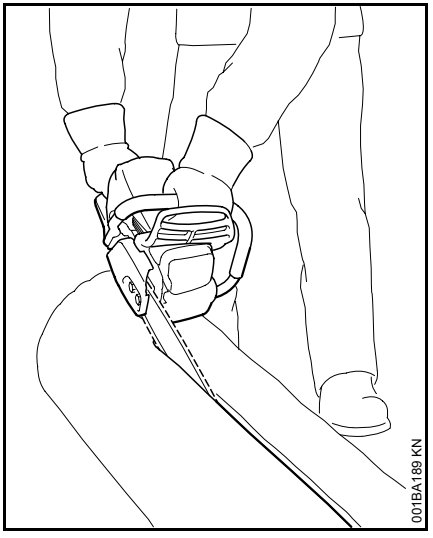


- 圧縮がかかっている側 (1) に負荷軽減カットを入れます。
- 張力がかかっている側 (2) に玉切りを入れます。

底部から上部に向けて玉切りする場合、**プッシュバックの恐れがあります！**

倒れた材木の切り込み部分が地面に触れないようにします。チェンを損傷します。

縦引き



バンパー スパイクを使用せずに切断する技術で、プルインの恐れがあります。ガイドバーを浅めの角度でガイドバーに差し込み、注意深く作業します。
キックバックの恐れがあります！

振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指がよく冷たくなる、しびれ）。
- 低い外気温。
- 掴む力の強さ（強く握りしめると、血行が低下します）。

機械を規則的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

整備と修理

本機は定期的に整備する必要があります。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は、販売店に依頼してください。

当社では、整備や修理をスチール認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故や本機の破損を回避してください。不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

スチール純正スペアパーツのみをご使用いただくように、お勧めします。これらの部品は、本機に対しても、利用者のご要望に対しても、最適化されています。

本機の修理、整備、掃除などを実施する前には、常に**エンジンを停止し、スパークプラグターミナルを外して、エンジンが不意に始動して怪我する恐れ**のないようにしてください。— 例外：キャブレター調整およびアイドリングスピード調整時は、このかぎりではありません。

スパーク プラグ ターミナルを取り外したり、スパーク プラグを緩めたまま、スターターでエンジンを始動すると、シリンダー外部でイグニッションスパークが生じて**火災の危険**があるので、その前にスライド コントロールまたは停止スイッチを STOP または 0 に移動してください。

火気の近くで調整したり保管しないでください。燃料を搭載していますので、**火災の恐れ**があります。

燃料キャップがしっかり閉まっていることを、定期的に点検してください。

欠陥のない、当社が承認したスパークプラグのみを使用します。「技術仕様」を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと（絶縁状態、接続の確実性）を確認してください。

マフラーに問題が無いことを確認してください。

破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま、本機を使用しないでください。**火災の恐れがあります！聴力にも支障を来たします！**

絶対に加熱されたマフラーに触れないでください。**火傷の危険があります！**

防振装置の状態は振動動作に影響します。防振装置を定期的に点検してください。

チェン キャッチャーを点検してください。破損している場合は交換します。

エンジンのスイッチを切ります。

- チェンの張りを点検します。
- チェンの張りを締め直します。

– チェンを交換します。
– 不具合があれば修正します。

目立てに関する注意事項を守ってください。安全にかつ正しく取り扱うため、チェンとガイド バーを完全な状態に保持します。正しく目立てをして、張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェン、ガイドバー、チェンス プロケットを適切な時期に交換します。

クラッチ ドラムの動作状態が完全であることを確認してください。

燃料とチェンオイルを指定された容器でのみ保存し、正しくラベル付けします。ガソリンが直接肌に触れないようにしてください。ガソリン蒸気を吸引しないでください。**健康を害します。**

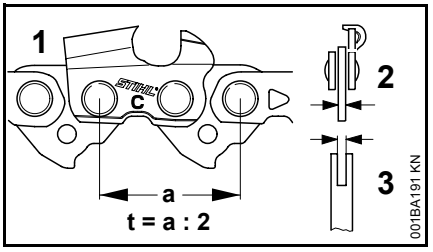
チェン ブレーキに不具合が発生した場合、機械を即座に停止します。**ケガの危険があります！**スチール サービス店にお問い合わせください。不具合が改善されるまで、機械を使用しないでください。「チェン ブレーキ」の項を参照してください。

カッティング アタッチメント

スチール社は業界で唯一、自社製のチェンソー、ガイドバー、ソーチェン、チェン スプロケットを製造しています。

カッティング アタッチメントは、ソーチェン、ガイドバー、チェン スプロケットで構成されています。

標準仕様のカッティング アタッチメントはチェンソーに合致するように設計されています。

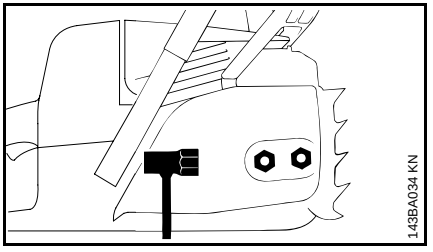


– ソーチェン (1) のピッチ (t) を、ローロマチック ガイドバーのチェン スプロケットやノーズ スプロケットのピッチと適合させてください。
– ソーチェン (1) のドライブリンク ゲージ (2) はガイドバー (3) の溝幅と一致させてください。

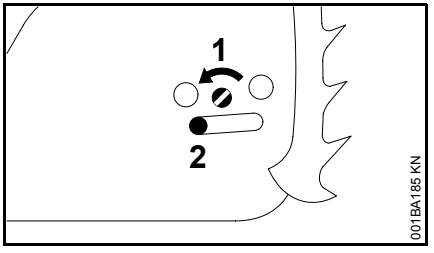
適合しないコンポーネントを使用すると、カッティング アタッチメントは短時間使用しただけで修理不可能なほどに破損してしまうことがあります。

バーとチェンの取り付け（サイドチェン テンショナ）

チェン スプロケット カバーの取り外し

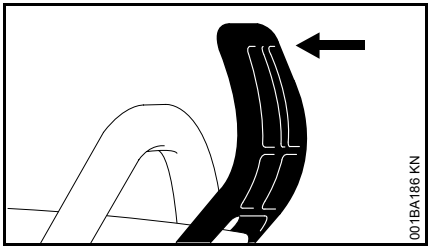


- ナットを緩めて、チェン スプロケット カバーを取り外します。



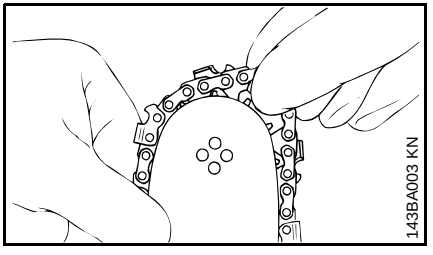
- テンショナー スライド (2) の出っ張りがハウジングの溝の左端にくるまでスクリュー (1) を反時計回りに回します。

チェンブレーキの解除



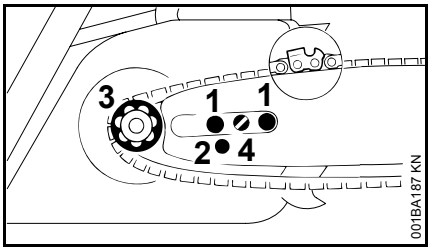
- カチッと音がするまで前ハンドル方向にハンド ガードを引きます。チェン ブレーキのロックが外れます。

チェンの取り付け



⚠ 作業用手袋を着用してください。鋭利なカッターでケガをする危険があります。

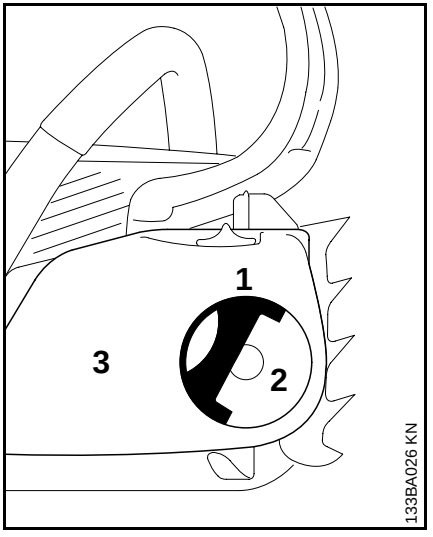
- チェンを取り付けます。バーの先端から開始します。



- ガイドバーをスタッド (1) に固定します。バー上部のカッティング エッジを右に向けます。
- テンショナー スライドのペグを位置決め穴 (2) にはめ込み、同時にチェンをスプロケット (3) にセットします。
- テンショニング スクリュー (4) を時計回りに回して、チェン下側のたるみがわずかになるまでチェンを張ります。ドライブ リンクがガイドバーの溝にきちんと入っていることを確認します。
- スプロケット カバーを再び取り付け、ナットを指で締めます。
- 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

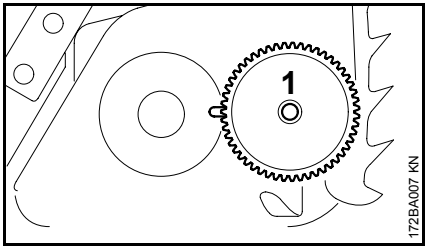
バーとチェンの取り付け（クイックチェン テンショナ）

チェン スプロケット カバーを取り外します。

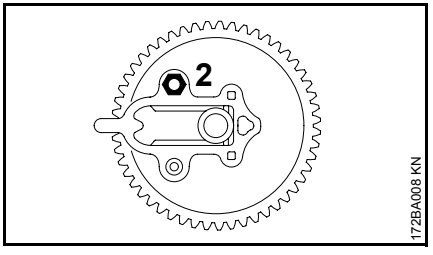


- ヒンジ クリップ (1) を引き起こして、所定位置に固定します。
- ウィングナット (2) が緩まるまで、反時計回りに回します。
- スプロケット カバー (3) 内部。
- スプロケット カバーの取り外し

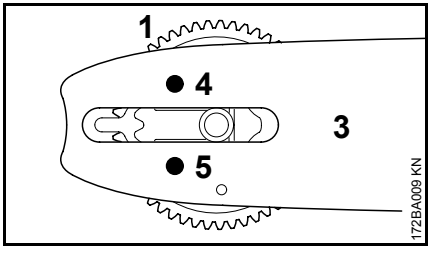
テンショニング ギヤーの取り付け



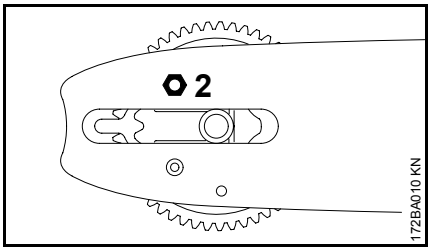
- テンショニング ギヤー (1) を取り外して、裏返します。



- ナット (2) を取り外します。

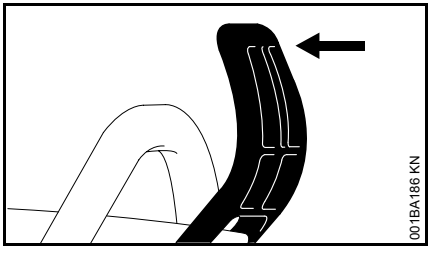


- テンショニング ギヤー (1) をガイド バー (3) に当て、スタッド (4) が上側の穴を通り、短いガイド ペグ (5) が下側の穴にくるようにします。



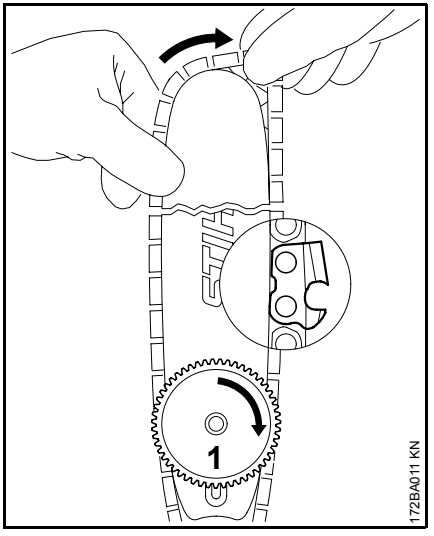
- ナット (2) をスタッドに取り付け、止まるまで締め込みます。

チェンブレーキの解除



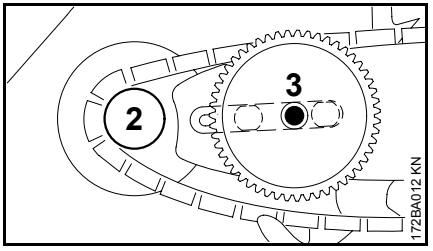
- カチッと音がするまで前ハンドル方向にハンドガードを引きます。チェン ブレーキのロックが外れました。

チェンの取り付け

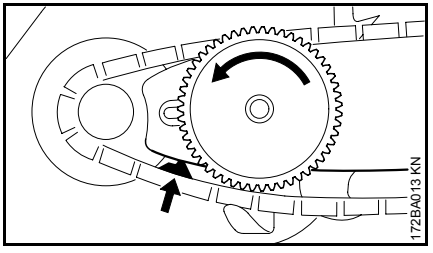


⚠ 作業用手袋を着用してください。鋭利なカッターでケガをする危険があります。

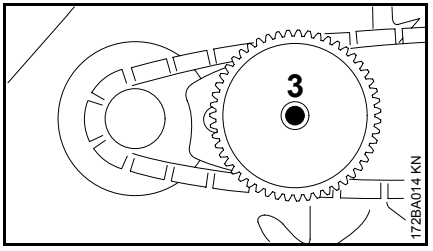
- チェンを取り付けます。バーの先端から開始します。テンショニング ギヤーとカッターの刃先の位置に注意してください。
- テンショニング ギヤー (1) を時計回りに止まるまで回します。
- テンショニング ギヤーが手前側に向くようにガイド バーを取り付けます。



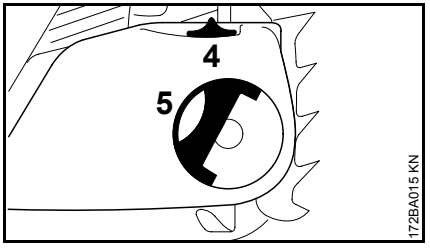
- チェンをスプロケット (2) に取り付けます。
- ガイド バーを所定の位置に、カラー スクリュー (3) がテンショニング ギヤーの穴にかみ合うように取付けます。2 本のショートカラー スクリューの頭がガイド バーの長溝から突き出していることを確認してください。



- ドライブリンクがガイド バーの溝（矢印）にきちんと入っていることを確認した後、テンショニング ギヤーを反時計回りに止まるまで回します。



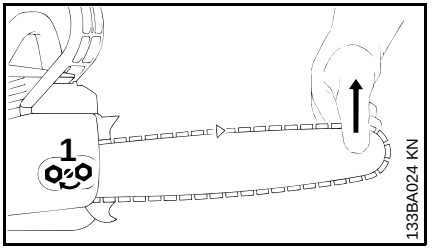
- ウィング ナットをカラー スクリュー (3) 上に固定して、チェン スプロケット カバーを取り付けます。



チェンスプロケットカバーを取り付けた後、テンショニング ギヤーの歯およびアジャスティング ホイールメッシュを点検します。

- 必要ならば、調整ホイール (4) を少し回して、スプロケット カバーが押されてエンジン ハウジングに並ぶようにします。
- ヒンジ クリップ (5) を引き起こて、所定位置に固定します。
- ウイングナットをかみ合わせて、軽く締めつけます。
- 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

ソーチェンの張り方（サイドチェン テンショナ）



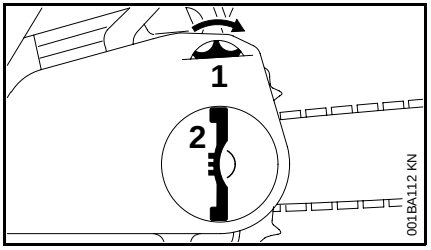
切断作業の合間に再調整する場合：

- エンジンを停止します。
- ナットを緩めて、バー先端を持ち上げます。
- スクリュードライバーでテンショニング スクリュー (1) を時計回りに回し、チェンがバーの下側に軽く触れるまでチェンを張ります。
- バーの先端を持ち上げたまま、ナットをしっかりと締めます。
- 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

新品のチェンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- チェンの張り具合は頻繁に点検してください __U2013 「作業中の注意事項」を参照してください。

ソーチェンの張り方（クイックチェン テンショナ）



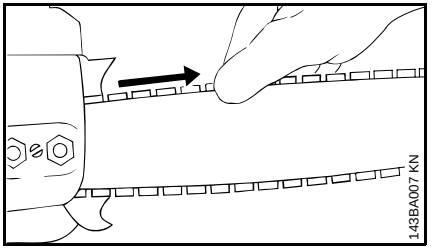
切断作業の合間に再調整する場合：

- エンジンを停止します。
- ヒンジクリップを引き出し、ウイングナットを緩めます。
- 調整ホイール (1) を、時計回りに止まるまで回します。
- ウイング ナット (2) を、手でしっかりと締め付けます。
- ヒンジクリップを降ろします。
- 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

新品のチェンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- チェンの張り具合は頻繁に点検してください -「作業中の注意事項」を参照してください。

チェンの張り具合の点検



- エンジンのスイッチを切ります。
- 保護手袋を着用してください。
- ソーチェンをバーの下部に沿って取り付け、ガイドバーから手で引き出せるようにします。
- 必要ならば、チェンを張り直してください。

長期間使用しているソーチェンに比べて、新しいソーチェンは頻繁に張り直してください。

- チェンの張り具合は頻繁に点検してください _U2013 「作業中の注意事項」を参照してください。

燃料

エンジンには、ガソリンと 2 サイクルエンジン用オイルの混合燃料が必要です。

健康を害しますので、ガソリンに直接肌を触れたり、ガソリンの蒸気を吸い込まないようにしてください。

スチール モトミックス (MotoMix)

当社はスチール モトミックス (MotoMix) のご使用をお勧めします。この既製の混合燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価で常時、適正な混合率を保ち、安心してご使用いただけます。

スチール モトミックス (MotoMix) はスチールエンジン専用に開発されたものであり、エンジンの長寿命を保証します。

スチール モトミックス (MotoMix) が販売されていない市場もあります。

燃料の混合

規定されている以外の不適切な燃料やオイル、または混合比率を使用されると、エンジンに重大な損傷を生じることがあります。低品質のガソリンあるいはエンジンオイルは、エンジン、オイルシール、燃料ホース、および燃料タンクを損傷することがあります。

ガソリン

無鉛と有鉛を問わず、最低オクタン価 90 の高品質ブランドのガソリンだけを使用してください。

触媒コンバータを装備したマシンには、必ず無鉛ガソリンを使用してください。

鉛含有ガソリンを燃料タンク数回分使用した場合、触媒効果は大幅に低下します。

エンジン オイル

高品質 2 サイクル エンジン オイルだけを使用してください。特に、**スチール 2 サイクル エンジン オイルをお勧めします。スチール エンジンに最も適しており、長いエンジン寿命を保証します。**

スチール 2 サイクル エンジン オイルが手元にない場合は、空冷エンジン用の高品質 2 サイクル エンジン オイルだけを使用してください。水冷エンジンまたは独立した潤滑システムを持つエンジン（従来の 4 サイクル エンジンなど）用のエンジン オイルを、使用しないでください。

触媒コンバータを装備した機種で使用する混合燃料には、**スチール 2 サイクル エンジン オイル 50:1** だけを使用してください。

混合比率

スチール 50: 1 2 サイクル エンジンオイルの場合：50:1 = ガソリン 50 + オイル 1

例

ガソリン リットル	スチール 2 サイクルオイル 50:1 リッ　(ml) トル
1	0,02　(20)
5	0,10　(100)
10	0,20　(200)
15	0,30　(300)
20	0,40　(400)
25	0,50　(500)

その他のブランドの 2 サイクル エンジンオイルの場合：25:1 = ガソリン 25 + オイル 1

- 燃料の保管には承認された容器を使用してください。燃料容器に先ずオイル、その後にガソリンを入れて、充分に混ぜ合わせます。

燃料の保管

燃料は、承認された安全タイプの燃料容器に入れて、乾燥した、涼しい、安全な、太陽や照明から保護された場所に保管してください。

混合燃料は時間の経過と共に劣化するので、数週間で使い切る分だけ混合してください。混合燃料を 3 ヶ月以上保管しないでください。照明や太陽の直射や過酷な高低温では、混合燃料の劣化が加速されます。

- 給油する前に混合燃料の入った携行缶をよく振ってください。

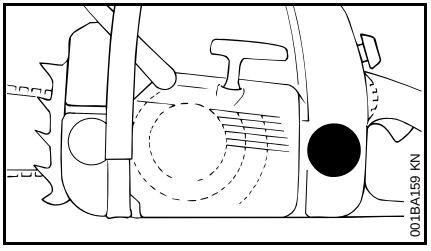
  携行缶内で圧力が生じている可能性があるので、慎重に開けてください。

- 燃料タンクと携行缶は、時々十分に洗浄してください。

残ったガソリンと洗浄に使用した液体は、その地域の規定と環境要件に従って適切に処理してください。

給油

準備



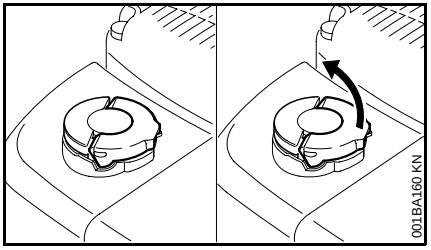
- 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、フィラー キャップとその周りをきれいにしてください。
- フィラー キャップが上を向くようにマシンを置いてください。

燃料を補填します。

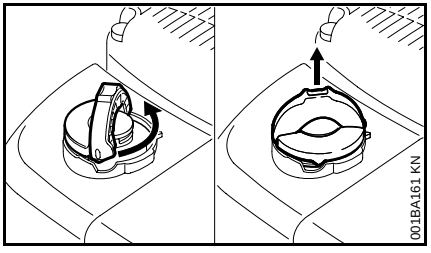
給油の際には燃料をこぼさないようにし、また燃料をタンクからあふれさせないでください。

当社では給油用にスチール フィラー ノズル（特殊アクセサリー）の使用をお勧めします。

開け方

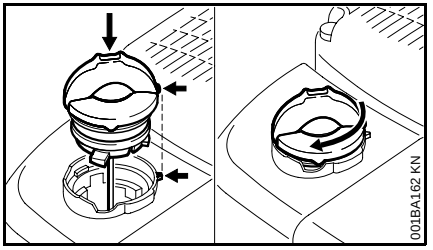


- グリップを立った位置になるまで起こします。

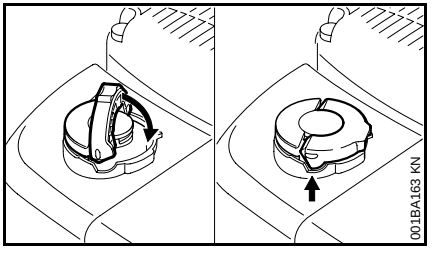


- キャップを約 1/4 回転、反時計回りに回します。
- キャップを外します。

閉じ方



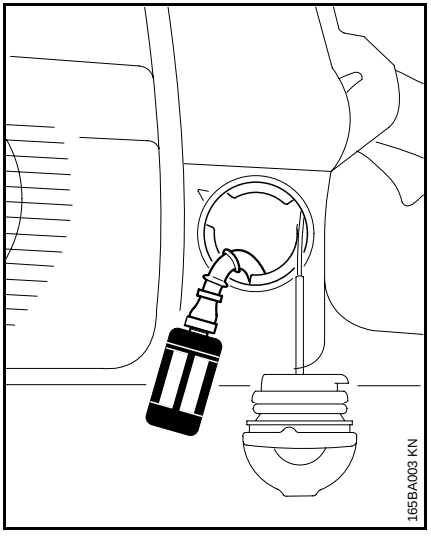
- キャップを、グリップを立てたままマークが並ぶまで、注入口に正しく差し込みます。
- キャップを時計回りに止まるまで回します。
（約 1/4 回転）。



- グリップをおろし、キャップの上端と水平にします。

グリップがキャップと完全に平らになっていないため、グリップの耳がへこみとかみ合っていない場合（矢印を参照）、キャップは正しく閉じていませんので、上記手順を繰り返してください。

燃料ピックアップボディの交換



燃料ピックアップ ボディを毎年交換します。

- 燃料タンクを空にします。
- 燃料ピックアップボディをフックでタンクから引き出し、ホースから外します。
- 新しいピックアップボディをホースに差し込みます。
- ピックアップボディをタンクの中に戻します。

チェン オイル

チェンとガイドバーの自動的で信頼性のある潤滑のため、環境に優しい高品質チェンオイルだけを使用してください。生分解が速いスチールバイオプラスをお勧めします。

生分解性チェンオイルには、充分な耐劣化性が必要です（スチールバイオプラス等）。耐劣化性に乏しいオイルは、樹脂化が速い傾向にあります。その結果、特にチェン駆動部、クラッチ部分、チェンに蓄積物が固着し、除去しにくくなります。オイルポンプが故障する原因ともなります。

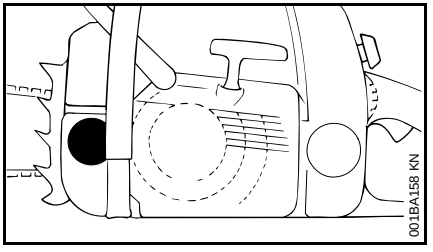
使用するオイルの品質は、ソーチェンとガイドバーの寿命に大きく影響します。従って、必ず専用のチェンオイルだけを使用してください。

廃油を使用しないでください！廃油は、長期間繰り返し肌に触れると、皮膚ガンを引き起こすことがあります。さらに、環境に害を与えることがあります！

廃油には必要な潤滑特性がなく、チェンの潤滑には適していません。

チェン オイルの給油

準備



- ゴミがタンクの中に落ちないように、フィラー キャップとその周辺の汚れをきれいに拭き取ります。
- フィラー キャップが上を向くように機械を置いてください。
- フィラー キャップを開きます。

チェン オイルを給油します。

- 燃料を補給する度に、チェン オイルを給油します。

給油の際にはチェン オイルをこぼさないようにし、またチェンオイルをタンクいっぱいに入れないでください。

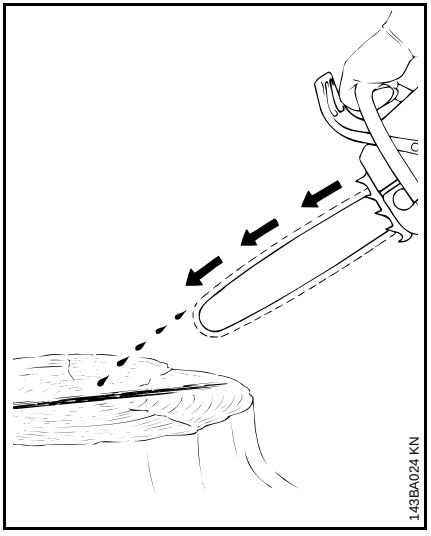
当社ではチェン オイル用スチール フィラー ノズル（特殊アクセサリー）の使用をお勧めします。

- フィラー キャップを閉じます。

燃料タンクが空になっても、オイルタンクにはオイルが少量だけ残ります。

もし、タンク内のオイル量が減らない場合は、オイル供給システムが故障している可能性があります。チェンの潤滑状態を点検し、オイルの通路をきれいにしてください。必要な場合はスチール サービス店にお問い合わせください。当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

チェン オイルの吐出点検



ソー チェンは常に多少のオイルを飛散しています。

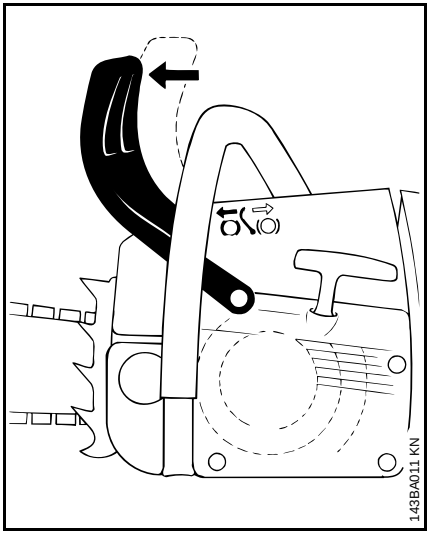
チェンは、潤滑油なしで操作してはいけません。チェンを乾いたまま回転させると、カッティング アタッチメント全体がすぐに損傷して、修理不能になります。作業を始める前に、常にチェンの潤滑状態とタンク内のオイル量を点検してください。

新品のチェンは 2 ～ 3 分間ならし運転をしてください。

チェンのならし運転を行った後、チェンの張り具合を点検し、必要な場合は再調整してください。「チェンの張り具合の点検」の項を参照してください。

チェン ブレーキ

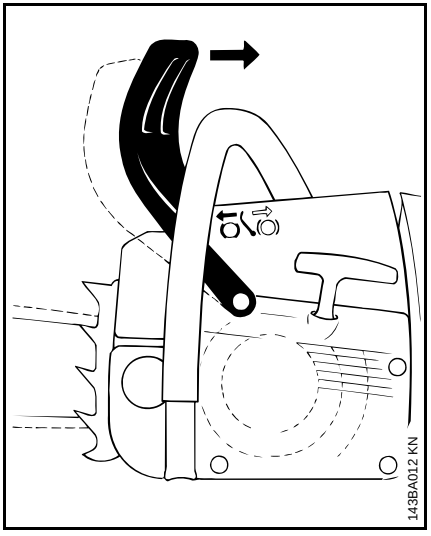
チェーンブレーキによるチェンのロック



- 緊急時
- 始動時
- アイドリング時

左手でハンドガードをバー先端に向かって押すか、または一定のキックバック状況下の慣性力を利用して、チェン ブレーキを作動します。チェンが停止して、ロックします。

チェン ブレーキの解除



- ハンドガードを前ハンドルの方に引き戻してください。

エンジンを加速して、切断作業を開始する前（動作確認時は除く）にチェンブレーキのロックを解除します。

チェン ブレーキがロックしている状態（ソーチェンは静止した状態）でエンジン回転数を高くすると、短期間でエンジンやチェン駆動部（クラッチ、チェン ブレーキ）に損傷を起こします。

また、チェンソーのキックバックの力が大きいと、前ハンドガードの慣性力が働き、チェン ブレーキが作動します。伐倒作業時のように、作業者の左手がハンドガードの後側になくても、ハンドガードはバーの先端方向に動きます。

チェン ブレーキは、ハンドガードを全く改造していない場合にだけ作動します。

チェン ブレーキの作動点検。

始動前：エンジンがアイドリング回転時に、チェン ブレーキを作動させ（ハンドガードをバー先端方向に押します）、短時間（ 最長 3 秒間）スロットルを全開にします。この時、チェンが回転してはいけません。ハンドガードがゴミで汚れていず、自由に動くようにしてください。

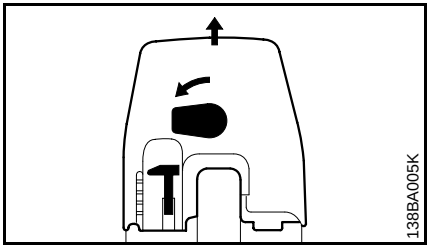
チェン ブレーキの整備

チェン ブレーキは普通に使っていても、徐々に磨耗します。熟練した整備担当者に定期的に整備してもらうことをお勧めします。当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。次の整備期間を遵守してください。

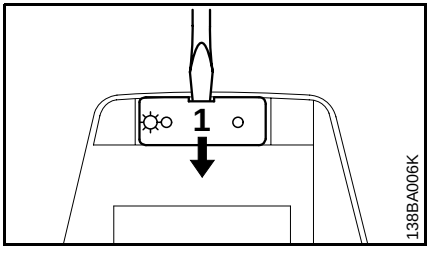
頻繁な使用：	3 ヵ月毎
頻繁ではない使用：	6 ヵ月毎
時々しか使用しない場合：	12 ヵ月毎

冬季作業

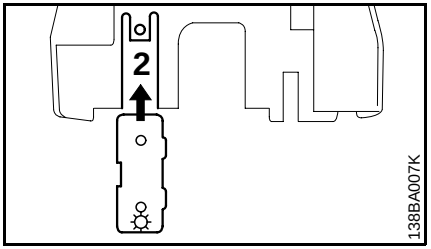
気温が +10 ℃ 以下の場合



- 後ハンドルの上にあるレバーを、反時計回りに 90 度回転します。
- キャブレター ボックス カバーを上に向けて取り外します。



- シャッター(1) をキャブレターボックスカバーからこじって外します。



- シャッターをキャブレター ボックス カバーの下側にあるスロット (2) に差し込みます。

気温が +20 ℃以上の場合：シャッターを「夏季」位置に戻します。さもないと、運転時に故障やオーバーヒートが発生します。

- キャブレターボックスカバーを再び取り付け、レバーでロックします。

シリンダー付近から入った温まった空気が、冷たい空気と混合され、キャブレターの凍結を防ぎます。

気温が -10 ℃ 以下の場合

特に低温の状況下（外気温が -10 ℃ 以下で、粉雪や吹雪の時）でチェンソーを使用する場合は、インテーク エアー プレヒーティング キット（特殊アクセサリー）を取り付けることをお勧めします。

このキットを取り付けると、シリンダー周辺の暖められた空気のみが吸い込まれます。これによってエアーフィルターやキャブレターの凍結を防止できます。

インテーク エアー プレヒーティング キットを取り付けたら、キャブレターを予熱するシャッターの位置を必ず「冬季作業」に設定してください。

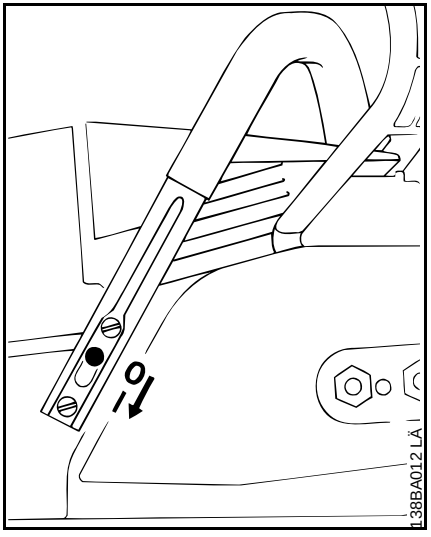
チェンソーに霜や氷が付いていて非常に冷えている場合、エンジンが始動したらチェンブレーキを解除して高めの回転数でアイドリングし、通常の運転温度になるまで暖めてください。

インテーク エアー プレヒーティングを使用すると、エアーフィルターが早く目詰まりすることがあります。こまめに掃除してください。

エンジンが不調な場合、まずインテーク プレヒーティングの使用に適した状況であるかを確認してください。

電気ハンドル ヒーター

ハンドル ヒーターのスイッチをオンにします（装着機種）。

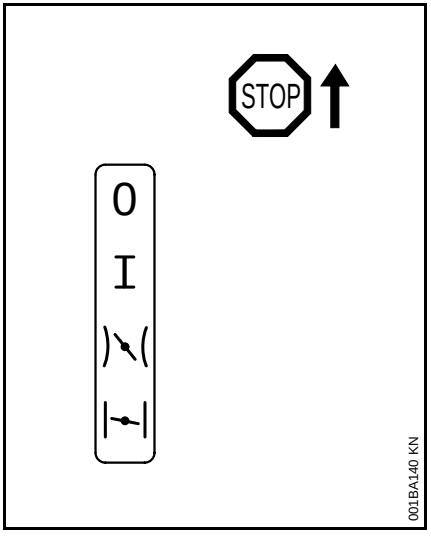


- ヒーターのスイッチをオフにするには、前ハンドルのスイッチを **I** に移動して、スイッチを **0** に戻します。

長時間の作業中でも過熱する危険はありません。ヒーティング システム全体がメンテナンスフリーになっています。

始動前の注意事項

マスター コントロール レバーには 4 つの位置があります。



停止 0 − エンジン停止。イグニッションがオフの状態。

運転位置 I − エンジンが運転中または始動可能。

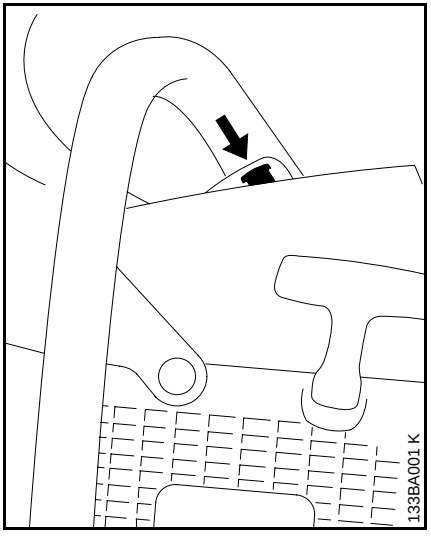
スロットル トリガー インターロックとスロットル トリガを同時に押して、マスター コントロール レバーを **I** から)\(または |\| に移動します。

暖機スタート)\(− エンジンが暖まっている時はこの位置で始動させます。スロットル トリガーを押すと、マスター コントロール レバーは運転位置に戻ります。

冷機スタート |\| − エンジンが冷えている時は、この位置で始動します。

エンジンの始動と停止

デコンプ バルブ付きの機種のみ



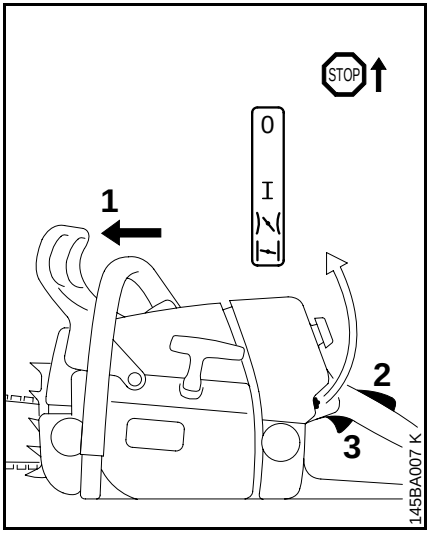
- ボタンを押すと、デコンプバルブが開きます。

デコンプ バルブは、エンジンが点火されると直ちに自動的に閉じます。

- このため、始動する前には、デコンプバルブのボタンを必ず押してください。

全ての機種

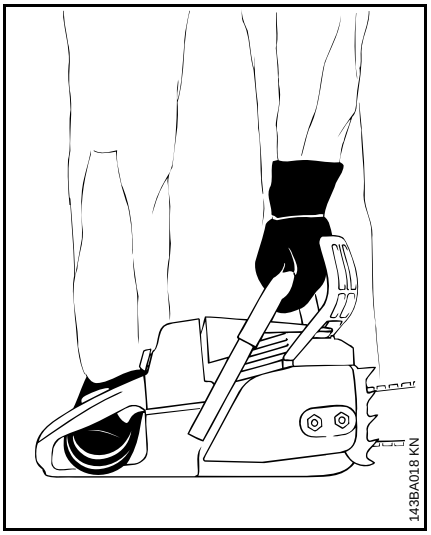
- 安全注意事項を守ってください。



- ハンドガード (1) を前方に押します：これでチェンがロックされました。
- トリガーインターロック (2) を押しながら、スロットル トリガー (3) を引きます。マスター コントロール レバーを次の位置にセットします：

|\| 冷機スタートの場合

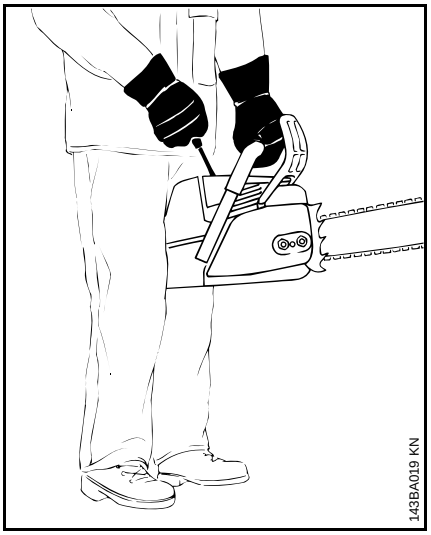
)\(暖機スタートの場合。また、エンジンの始動後、温まりきっていない場合もこの位置を使用します。



- チェンソーを地面に置きます。安定した足場を保ちます。チェンが他の物体や地面に接触しないことを確認します。

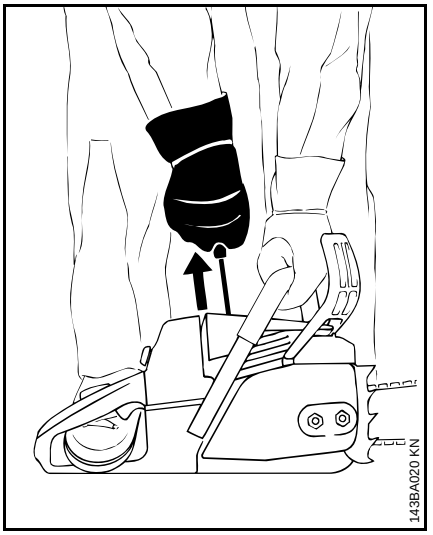
⚠ チェンソーの作業者以外は作業場所から十分離れてください。

- 左手で前ハンドルを握ってチェンソーをしっかりと地面に押さえ、親指がハンドルの下側に来るようにします。
- 右足のつま先を後ハンドルの中に入れて、しっかり押さえます。



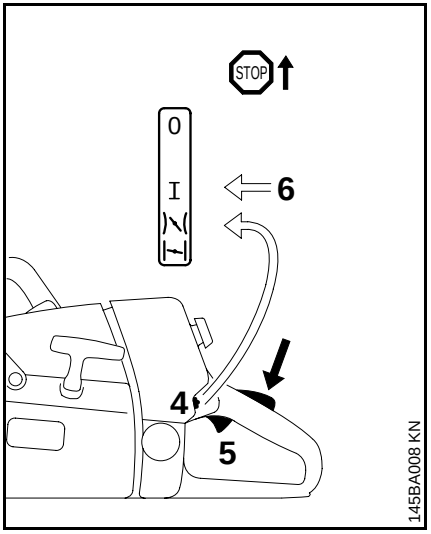
もう一つの始動方法：

- チェンソーの後ハンドルを、両足の膝上部でしっかり挟みます。
- 前ハンドルを左手でしっかり握り、親指はハンドルの下側に来るようにします。



- スターターグリップを右手でゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら、勢いよく引っ張ります。同時に前ハンドルを下に押し付けます。スターターロープは最後まで引っ張らないでください。切れることがあります。スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むとスターターロープは正しく巻き込まれます。

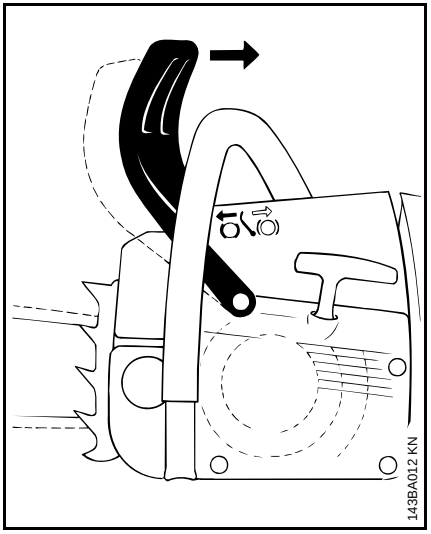
新品機の場合、燃料の吸い上げに時間がかかるので、スターターロープを引く回数が多くなります。



エンジンが始動したら：

- デコンプバルブのボタンをもう一度押します。
- マスターコントロールレバー(4) を ⎍ 位置まで移動して、引き続き、始動動作を実行して、エンジンが掛かったら、**即座に**スロットルトリガー (5) を軽く引くと、マスターコントロールレバー (4) が運転位置 **I** (6) に戻り、エンジンがアイドリング回転になります。

チェンブレーキがまだかかったままなので、**直ちに**アイドリングスピードの状態にしてください。エンジン ハウジングやチェンブレーキを傷めることがあります。



- ハンドガードを前ハンドルの方に引き戻してください：チェンブレーキのロックが解除されて、チェンソーの使用準備が完了しました。

チェンブレーキが解除されたときのみスロットルを握ります。チェンブレーキがロックしている状態 (ソーチェンは静止した状態) でエンジン回転数を高くすると、短時間でエンジンやチェン駆動部 (クラッチ、チェンブレーキ) が損傷します。

- 作業を始める前に、必ずチェンオイルの吐出点検をしてください。

外気温度が極めて低いとき

- エンジンが十分暖まるまで、ハーフ スロットルにしておきます。
- 必要に応じて冬季作業の位置にします。「冬季作業」を参照してください。

エンジンの停止：

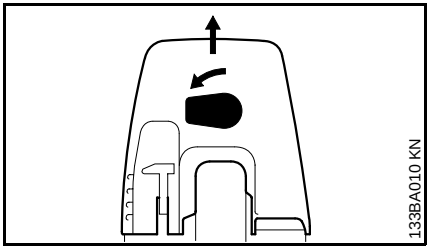
- マスターコントロールレバーを **0** に移動します。

燃料タンクが空になるまで運転してから再給油した場合

- ボタンを押して、デコンプ バルブを開きます。
- 燃料を吸い上げるまでスターターロープを何回か引っ張ります。
- エンジンを再始動します。

エンジンがかからない場合

エンジンが着火した後すぐにマスターコントロール レバーを暖機スタート ⎍ の位置に動かさないと、燃焼室に燃料を吸い込みすぎてしまいます。



- 後ハンドルの上にあるレバーを、反時計回りに 90 度回転します。
- キャブレター ボックス カバーを上に向けて取り外します。
- スパークプラグ ターミナルを抜き取ります。
- スクリューを外してシュラウドを取り外します。
- スパークプラグをゆるめて外し、乾かします。
- マスターコントロールレバーを **0** に移動します。
- 燃焼室の換気の為、スターターを数回引っ張ります。
- スパーク プラグを取り付け、スパーク プラグ ターミナルを（しっかりと押し込んで）つなぎます。他の部品を取り付けます。
- マスター コントロール レバーを)\(にセットします。エンジンが冷えている場合でも同様にしてください。
- デコンプ バルブのボタンをもう一度押します。
- エンジンを再始動します。

作業中の注意事項

ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転（無負荷でフルスロットル）で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5 ～ 15 回分の使用後となります。

出力を増そうとして混合比を薄くしてはいけません。エンジンを損傷することがあります。「キャブレターの調整」の項を参照してください。

必ずチェン ブレーキを解除してから、エンジンを加速させます。チェン ブレーキがロックしている状態（チェンはロックした状態）でエンジン回転数を高くすると、短時間でエンジンやチェン駆動部（クラッチ、チェン ブレーキ）を損傷します。

作業中

チェンの張りを時々点検してください！

新品のチェンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

チェンが冷えている場合：

チェンがバーの下部に軽く触れ、かつ手で回せるくらいが正しい張り方です。必要に応じて、チェンの張りを再調整します。「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

作業温度のチェン：

チェンが伸びてたわんできます。ドライブリンクがバーの溝から出てはいけません。チェンがバーから飛び出すことがあります。チェンの張りを再調整します。「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

作業が終了したら、チェンは必ず緩めてください。チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

長時間のフルスロットル運転後

しばらくの間アイドリングして、エンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品（イグニッションやキャブレター）を熱から守るためです。

作業後

- 作業中に暖まったチェンの張りを調整した場合、作業終了後にチェンを緩めてください。

チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

短期間使用しない場合：

エンジンが冷えるまで待ちます。凝結を避けるために、燃料を充填した状態で、次の使用時まで乾燥した場所で保管します。発火源の近くに置かないでください。

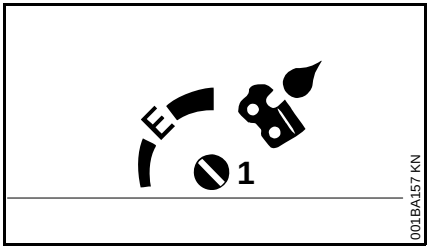
長期間使用しない場合：

「機械の保管」の項を参照してください。

オイル量の調節

流量調整型オイルポンプは特殊オプションです。

バーの長さ、木の種類および切り方によって、必要なオイルの量が異なります。



マシン下部にある調整スクリュー（1）を使用して必要な量のオイルが給油されるようにします。

E マチックの位置（E）。中程度のオイル流量ー

- 調整スクリューを「E」（E マチック位置）まで回します。

オイル流量を増加するにはー

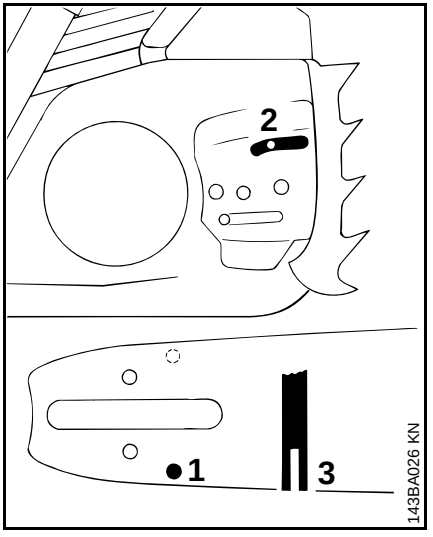
- 調整スクリューを時計回りに回します。

オイル流量を低減するにはー

- 調整スクリューを反時計回りに回します。

チェンは、常に潤滑油の膜で潤滑されている必要があります。

ガイド バーの保守



- バーを裏返してください。チェンの目立てをするときや、チェンを交換するたびに毎回行ってください。これは、特に先端と下側のような一方のみが摩耗するのを防止する為です。
- オイル インレット孔（1）、オイルの通路（2）、およびバーの溝（3）を定期的に掃除してください。
- ファイリング ゲージ（特殊アクセサリー）のメモリを使用して、切断で頻繁に使用する場所の溝の深さを測定します。

チェンのタイプ	チェンのピッチ	最小溝深さ
ピコ	3/8″ P	5.0 mm
ラピッド	1/4“	4.0 mm
ラピッド	3/8“; 0.325“	6.0 mm
ラピッド	0.404“	7.0 mm

溝深さが規定値より小さい場合：

- ガイドバーを交換します。

交換を怠ると、ドライブリンクが溝の底面にすれて、カッターとタイストラップがバーレールにのりません。

エアー フィルター システム

エアー フィルター システムは、適切なフィルターを取り付けて、さまざまな作業条件に合わせることができます。フィルターは迅速で簡単に交換できます。

チェンソーはメッシュ フィルターかフリース フィルターが標準装備で同梱されます。

メッシュ フィルター

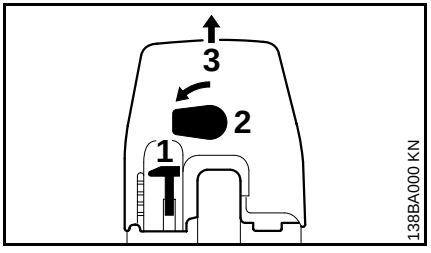
通常作業条件時と冬季作業時に使用します。

フリース フィルター

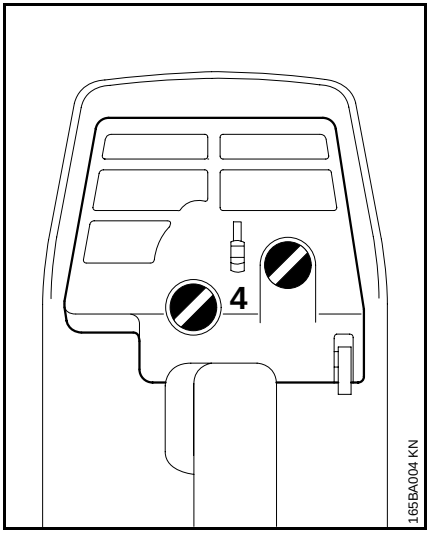
乾燥して、非常にほこりっぽい作業場所に使用します。

エアーフィルターの掃除

エンジンの出力が著しく低下した場合は



- マスター コントロール レバー (1) を ⊢| にセットします。
- 後ハンドルの上にあるレバーを、反時計回りに 90 度回転します。
- キャブレター ボックス カバー (3) を上方に持ち上げて取り外します。
- フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。



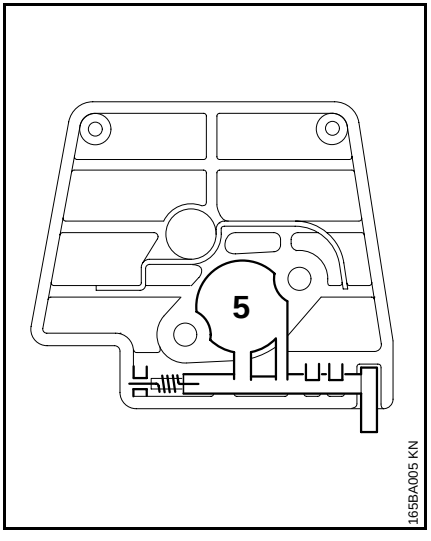
- スクリュー(4) を抜き取り、フィルターを取り外します。
- フィルターを 2 つに分解します。
- フィルターを手のひらでたたくか、フィルターの内側から外側に向かって圧縮空気を吹き付けます。

がんこな汚れが付いているときは：

- フィルターの構成部品を、スチール特殊洗浄剤（特殊アクセサリー）またはきれいな不燃性の溶液（例：ぬるい石けん水）で洗浄し、乾かします。

フリース フィルターの掃除には、ブラシを使用しないでください。

- フィルターが傷んだら、必ず交換してください。



- スプリング付きチョーク シャッター (5) が正しく装着されていることを確認します。
- エアー フィルターを再び取り付けます。
- キャブレター ボックス カバーを取り付けます。

キャブレターの調整

基本的情報

キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

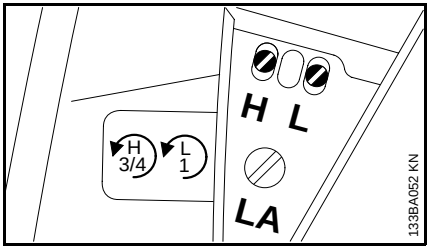
この設定で、ほとんどの運転状況で最適な混合気が得られます。

設定を薄くしすぎると、潤滑オイルの不足と過熱により、エンジンが破損する危険があります！

触媒コンバーターを装着したマシンでは、エンジンの最高回転数が 13,000rpm を下回ってはなりません（タコメーターで確認します）。

標準設定

- 次の場合にエンジンを停止します。
- エアー フィルターを点検し、必要な場合は掃除あるいは新品と交換します。
- マフラーのスパーク アレスター スクリーン（国によって異なる）を点検し、必要な場合は掃除あるいは新品と交換します。



- 高速調整スクリュー(H) を反時計方向に（最高でも 3/4 回転）止まるまで回します。
- 低速調整スクリュー(L) を時計方向に止まるまで注意深く回します。その後、1 回転戻します。

アイドリング回転の調整

アイドリング回転中にエンジンが停止する場合、

- 低速調整スクリューを標準設定に合わせます。
- アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をチェンが停止するまで反時計方向に回した後、更に 1/4 回転同方向に回します。

アイドリング回転中にチェンも一緒に回転する場合は

- 低速調整スクリューを標準設定に合わせます。
- アイドリング スピード調整スクリュー (LA) をチェンが回転し出すまで反時計方向に回した後、更に 1 回転同方向に回します。

⚠ エンジンのアイドリング回転時にチェンが回転し続ける場合、スチール サービス店に点検と修理を依頼してください。

低速調整スクリューが標準設定に正しく設定されているにもかかわらずアイドリングが不安定で、加速が不適切な場合は

- アイドリング設定が薄すぎます：低速調整スクリュー (L) を、エンジンがスムースに作動し滑らかに加速するようになるまで反時計回りに回します。

低速調整スクリュー (L) を調整するたびに、大抵の場合は、アイドリング スピード調整スクリュー (LA) を設定変更する必要があります。

高地で作業する場合の微調整

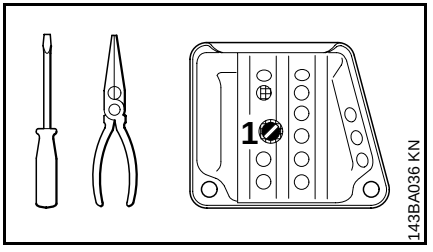
エンジン性能が充分でない場合は、わずかな調整が必要になる場合があります：

- 標準設定を確認します。
- エンジンを暖機運転します。
- 高速調整スクリュー(H) を僅かに時計回り（薄くする）に回します。H = 3/4 の機種では、止まるまでの範囲で回します。

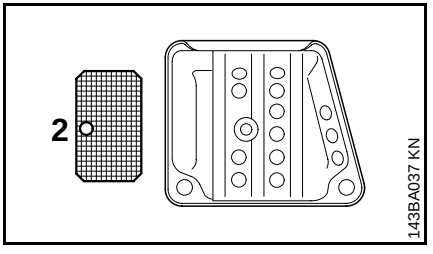
⚙ 設定を薄くしすぎると、潤滑オイルの不足と過熱により、エンジンが破損する危険があります！

マフラーのスパーク アレスター スクリーン

市場によって、マフラーにスパーク アレスター スクリーンが装備されています。エンジンの出力が低下した場合には、マフラーのスパーク アレスター スクリーンを点検してください。



- スクリュー (1) を抜き取ります。



- スパーク アレスター スクリーンを抜き取ります。
- スパークアレスター スクリーンを掃除します。スクリーンが損傷していたり、多量のカーボンが付着している場合は、新品と交換してください。
- スパークアレスター スクリーンを取付けます。
- スクリューを差し込み、しっかりと締め付けます。

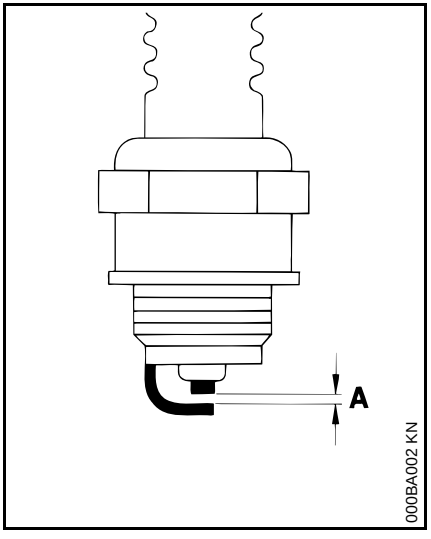
触媒コンバータ

触媒コンバータ付きパワーツール（機種による）の場合、**無鉛ガソリン**と**スチール 2 サイクル エンジン オイル**または同等の 2 サイクルエンジンオイルの 50:1 の混合比率で、運転してください。「燃料」の章を参照してください。

マフラーに一体化された触媒コンバータは、排気中の有害物質の放出を低減します。

キャブレターを正しく調整し（調整できる場合）、ガソリンと 2 サイクルエンジンオイルの前記の混合比率を厳密に順守することで、有害な排気を最小限に抑え、触媒コンバータの寿命を延ばすことができます。

スパーク プラグの点検



エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。

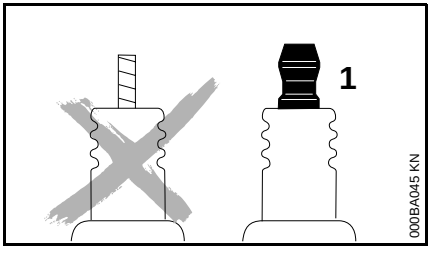
- スパーク プラグを取り外します。「始動 / 停止」の項を参照してください。
- 汚れたスパーク プラグをきれいにします。
- 電極ギャップ (A) を点検して、必要ならば調整します。数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- 以下のような、スパーク プラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジン オイル混合量の過多
- エアー フィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境

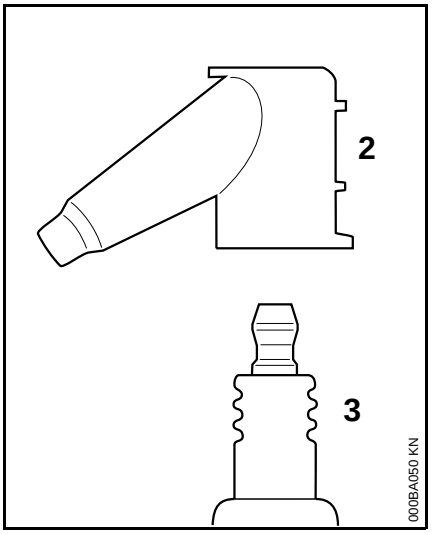
- **約 100 時間運転後**には新品のスパーク プラグを取り付けます。電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパーク プラグのみをご使用ください（「技術仕様」の項を参照）。

アークの発生や火災の危険を避けるために



スパーク プラグが取外し可能なアダプター ナット付きの場合：

- アダプター ナット (1) をねじ山にねじ込み、**しっかり**締め付けます。

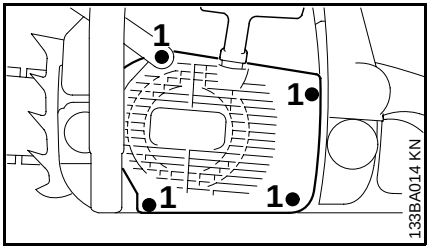


スパーク プラグ全て

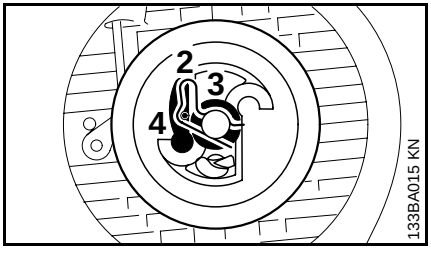
- スパーク プラグ ターミナル (2) を**しっかり**とスパーク プラグ (3) に接続します。

スターター ロープとリワインド スプリングの交換

スターター ロープの交換

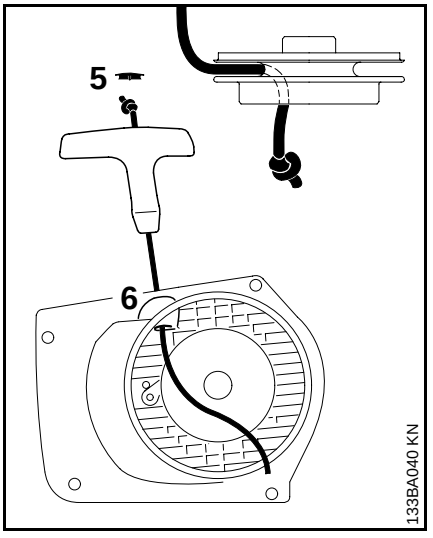


- スクリュー (1) を外します。
- ハンド ガードを押し上げてください。
- クランク ケースからファン ハウジングを下方に引き出してください。

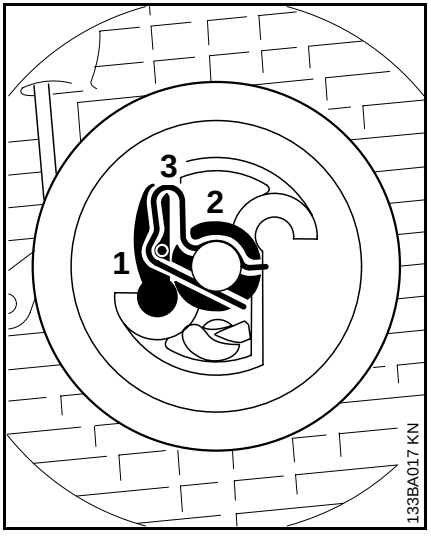


- スプリング クリップ (2) をスターター ポストから外します。
- ワッシャー(3) とポール (4) の付いたロープ ローターを慎重に取り外します。

⚠ 作業中にリワインドスプリングが外れて飛び出し、ケガをしないように気をつけてください。

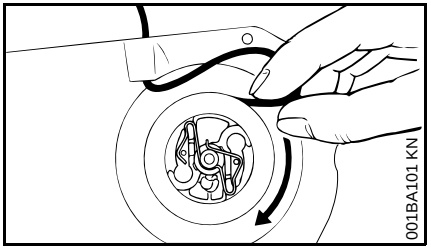


- エラスト スタートの場合のみキャップ (5) をスターター グリップからこじって外します。
- エラスト スタート付き機種に限り、残りのロープをローターとグリップから取り外し、スリーブがグリップから押し出されていないことを確認します。
- 新しいロープの端で簡単な一つ結びで止め、グリップの先端およびロープ ブッシング (6) にロープを通します。
- キャップをグリップに押し込みます。
- 新しいスターターロープをロープ ローターに通し、簡単な一つ結びで止めます。



- ロープローターのベアリングに非樹脂系のオイルを塗布します。
- ローターをスターターポストに入れ、左右に回し、リワインド スプリングのアンカー ループがはまるようにします。
- ポール (1) をローターに再び取り付け、ワッシャー (2) をスターターポストに取り付けます。
- スプリング クリップ (3) をスターター ポストに取り付け、ポールのペグに噛ませます。スプリング クリップは図のように時計方向に向けてください。

リワインド スプリングの張り方

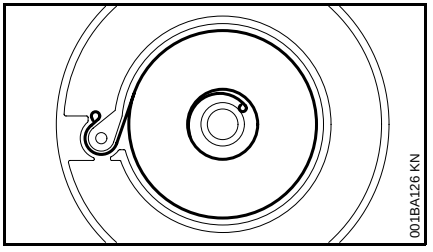


- スターター ロープを巻き込んでループを作り、それを使ってロープ ローターを矢印の方向に 6 回転させます。
- ローターをしっかり押さえます。ロープを引き出してねじれを直します。
- ローターを放します。
- ロープがローターに巻き付くように、ゆっくりロープを放します。

スターター グリップはロープ ガイド ブッシュにしっかりと固定されます。グリップが片側に垂れ下がる場合：もう 1 回ロープ ローターを回してスプリングの張力を強くしてください。

- スターターロープがいっぱいに張られている時もローターは半回転できるようにします。余裕がないと、スプリングの負荷が強すぎて、損傷することがあります。
- その場合は、ロープをローターから 1 周分外してください。
- ファン ハウジングを取り付けます。

破損したリワインド スプリングの交換



- 「スターターロープの交換」の項を参照して、ロープ ローターを取り外してください。

⚠ スプリングの破損部分に張力が残っており、ハウジングから外すときに不意に飛び出す場合があります。ケガの危険があります！顔のプロテクターおよび作業用手袋を着用してください。

- 破損したスプリングはハウジングから慎重に取り外します。
- 新しいスプリングに、非樹脂系のオイルを数滴塗布してください。
- スプリングハウジングとスプリングを取り出します。
- 新しいスプリングハウジングを取付けます。底側プレートが上向きになるように置きます。外部スプリング ループを突出部に滑り込ませます。
- ロープ ローターを取り付けて、リワインド スプリングを張ります。
- ファン ハウジングを取り付けてスクリューで固定します。

スプリングがスプリング ハウジングから飛び出してコイルが解けた場合：外側から内側へ反時計回りに取り付け直します。

機械の保管

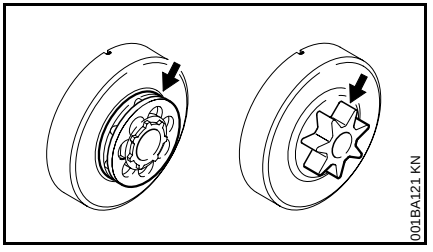
約 3 ヵ月以上の場合：

- 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- 燃料は、地域の環境規制条件通りに処理してください。
- キャブレターのダイヤフラムの固着を防ぐため、エンジンを運転してキャブレター内の燃料を空にしてください。
- ソーチェンとガイドバーを取り外し、汚れを落とし、防錆オイルを吹き付けます。
- 機械を丁寧に掃除します。特にシリンダー フィンとエアー フィルターに注意します。
- チェンオイルに生分解性オイル（スチール バイオ プラス等）を使用している場合、オイル タンクいっぱいになるまでオイルを充填します。
- 機械を乾いた、高所または鍵の掛かる場所に保管してください。子供などによる許可外の使用を避けてください。

チェン スプロケットの点検と交換

- チェン スプロケット カバー、ソー チェン、ガイドバーを外します。
- チェン ブレーキを解除します：ハンド ガードを前ハンドルに向かって引きます。

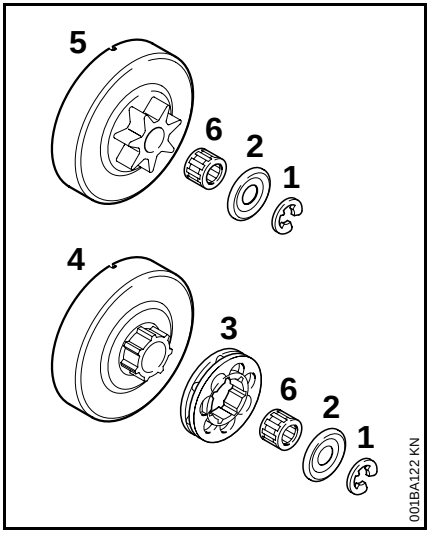
チェン スプロケットの交換：



- ソーチェンを 2 回交換する度に、あるいはそれ以前に
- スプロケット上の磨耗マーク（矢印）が約 0.5 mm を超えたら、チェンの寿命が短くなるので、直ちに交換します。ゲージ（特殊アクセサリー）を使用して摩耗度の深さを確認します。

1 つのスプロケットに対し 2 本のチェンを交替で使うのが理想的です。

当社では、チェンブレーキが確実に正しく作動するように、スチール純正スプロケットを使用されることをお勧めします。



- Eクリップ (1) をスクリュードライバーで外します。
- ワッシャー (2) を外します。
- リム スプロケット (3) を取り外します。
- クラッチ ドラム (4) 上の溝を点検して、ひどく磨耗していれば新しいクラッチ ドラムを取り付けてください。
- スパー スプロケット (5) をニードル ケージ (6) と一緒にクランクシャフトから抜き取ります。

スパー スプロケット / リム スプロケットの取り付け

- クランクシャフトの根本とニードル ケージをきれいにして、スチール潤滑グリース（特殊アクセサリー）を塗布します。
- ニードル ケージをクランクシャフトに押し込みます。
- クラッチ ドラムまたはスパー スプロケットを取り付けた後約 1 回転させ、オイル ポンプ ドライブにかみ合わせます。
- リムスプロケットを取り付けます。開孔部のある面を外側にしてドラムに入れてください。
- ワッシャーとEクリップをクランクシャフトに取り付けます。

ソーチェンの整備と目立て

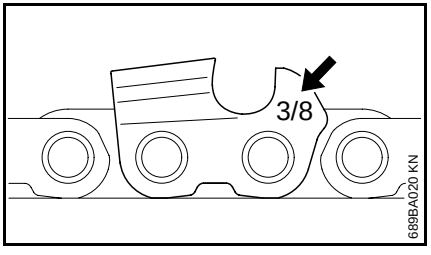
正しく目立てされたチェンで無駄な切断労力の削減

正しく目立てされたチェンを使うと簡単に木材を切ることができ、また加える力も少なくてすみます。

切れ味の悪いチェンや傷んでいるチェンで作業しないでください。身体に大きな負担がかかり、切断状態も十分でなく、刃の摩耗が早いからです。

- チェンの汚れを取り除きます。
- チェンにひびが入っていないか、リベットが破損していないか調べます。
- チェンに損傷や磨耗を発見したら、今までの部品とサイズや形状が同じ新しい部品と交換します。

⚠ 以下に指定した角度と寸法に適合していることが絶対に重要です。デプス ゲージが低すぎるなどソーチェンが間違って目立てされると、チェンソーのキックバックの危険度が増して、**怪我をする危険があります**。

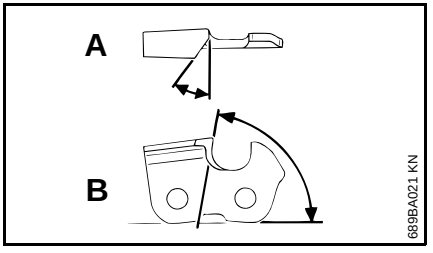


ピッチサイズ（例えば 3/8″）は、すべてのカッターのデプス ゲージ部分に刻印されています。

専用のチェンソーヤスリだけを使用してください。他のヤスリでは、形や削れ方が合いません。

ヤスリ径は、ピッチに合わせて選んでください。「目立工具」の表を参照してください。

目立ての際は、カッター角度を保持してください。



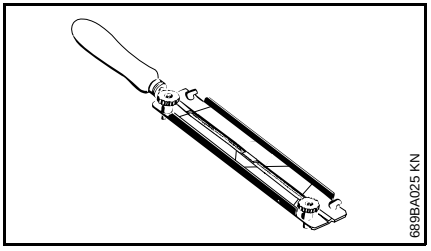
A　目立て角度
B　サイドプレート角度

チェンのタイプ	角度（°）	
	A	B
ラピッド マイクロ（RM）	30	85
ラピッド スーパー（RS）	30	60
ピコ マイクロ（PM）	30	85

カッターの形状
マイクロ = セミチゼル カッター
スーパー= フル チゼルカッター

推奨されているヤスリまたは目立工具と正しい設定を用いれば、自動的に指定された角度 A、B が得られます。

すべてのカッターの角度を同じにしてください。もし角度が不揃いになるとチェンの回転はガタついて、まっすぐに回りません。磨耗が速くなり、ついには破損します。

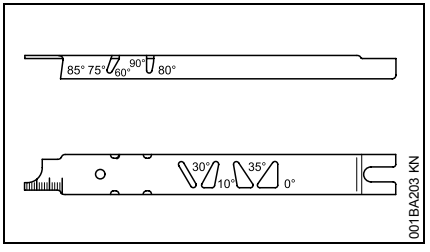


これらの条件を満たすには、かなりの熟練が必要なので：

- **ファイル ホルダの使用**

ソー チェンを手作業で目立てするには、必ずファイル ホルダーを使用してください（「目立工具」の表を参照）。正しいヤスリ角度はファイル ホルダーに刻印されています。

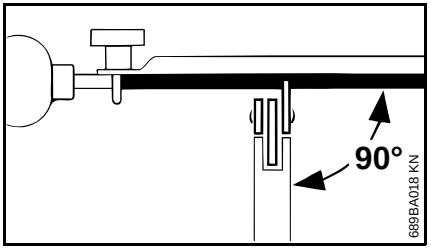
角度の点検用工具

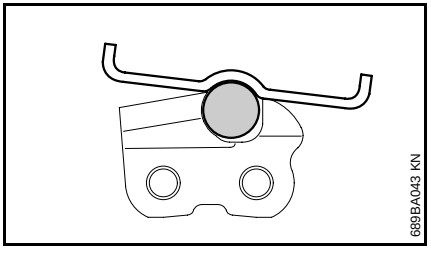


スチール ファイリング ゲージ（特殊アクセサリー、「目立工具」の表を参照）を使用してください。上刃・横刃目立角度、デプス ゲージのセッティング、カッターの長さ、溝の深さが点検できる便利な汎用ゲージです。ガイドバーの溝とオイル孔の掃除にも使えます。

正しい目立ての仕方

- チェンピッチに合った目立て工具を選んでください。
- 必要なら、バーを万力に挟んでください。
- ハンドガードを前方に押して、チェンブレーキをかけます。
- チェンを回転させるには、ハンドガードを前ハンドルに向かって引き、チェン ブレーキを解除します。
  クイックストップ スーパー付き機種では、スロットル トリガー インターロックレバーも押してください。
- 目立てはたびたび行い、ほんのわずか刃先を擦ります。通常の目立てでは、ヤスリを 2 ～ 3 回当てることで十分です。





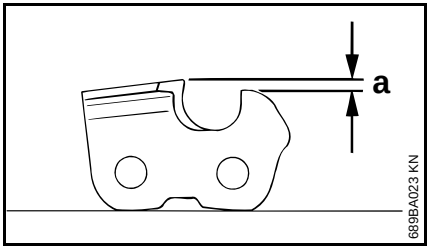
- ヤスリは**水平**（ガイドバー側面に対して直角）に握り、ファイルホルダーに刻印された角度で目立てします。ファイル ホルダーをトッププレートとデプス ゲージの肩に載せます。
- 常にカッターの内側から外側に向かってヤスリをかけます。
- ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします。後方ストロークのときはヤスリをカッターから少し離してください。
- ヤスリが、タイ ストラップやドライブ リンクに、接触しないようにしてください。
- 片側が摩耗しないように、ヤスリは一定の時間ごとに回して使用してください。
- 硬木の小片で、エッジのバリを取り除いてください。
- ファイリング ゲージで角度を点検してください。

すべてのカッターの長さを同じにしてください。

長さが異なると、刃の高さが揃いません。もし不揃いになると、チェンの回転がガタ付いて損傷することがあります。

- 一番短いカッターを見つけ、そのカッターに合わせて、他のカッターの長さを全て同じにします。工場の電動グラインダーで目立てすることをお勧めします。

デプス ゲージの設定



デプス ゲージによって、カッターが木に食い込む深さ、つまり削り取られる木の厚さが決まります。

a デプス ゲージとカッター先端との設定間隔。

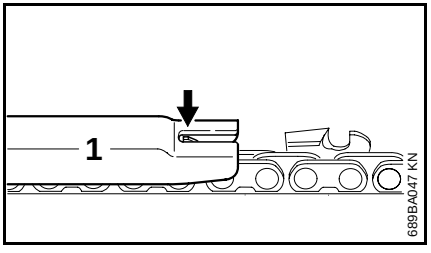
この設定は、穏やかな季節すなわち霜がないときに軟らかい木を切断する場合は、0.2 mm（0.008”）増やすことができます。

チェンのピッチ		デプス ゲージ設定値 (a)	
インチ	(mm)	mm	(インチ)
1/4	(6.35)	0.65	(0.026)
3/8 PMN	(9.32)	0.45	(0.018)
3/8 PM、PMMC3	(9.32)	0.65	(0.026)
0.325	(8.25)	0.65	(0.026)
3/8	(9.32)	0.65	(0.026)
0.404	(10.26)	0.80	(0.031)

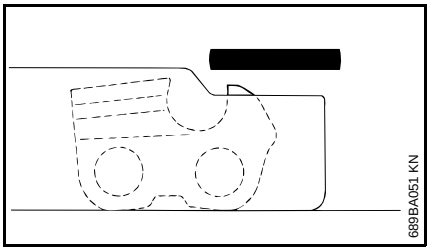
デプス ゲージを低くする

チェンの目立てを行うと、デプス ゲージ量が小さくなります。

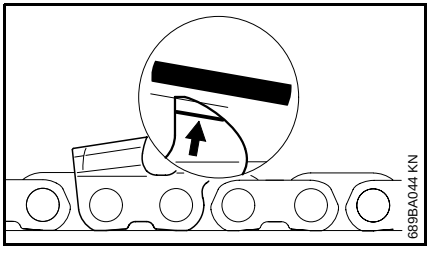
- チェンの目立てを行うたびに、ファイリングゲージでデプスの高さを点検します。



- チェンのピッチに合ったファイリング ゲージ (1) をソー チェンに載せます。デプス ゲージがファイリング ゲージから出ている場合は、デプス ゲージを低くします。

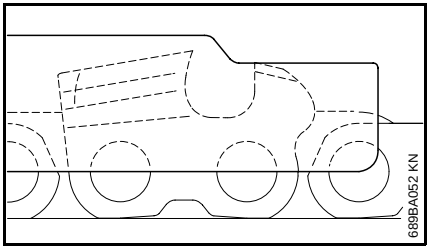


- デプス ゲージは、ファイリング ゲージと同じ高さになるように仕上げてください。



- その後、デプス ゲージの肩をサービス マーキング（矢印を参照）と平行になるように削ります。その際デプス ゲージの最も高い位置が、後方にずれないように注意してください。

⚠ デプス ゲージが低すぎると、チェンソーがキックバックを起こしやすくなります。



- ファイリングゲージをソーチェンに載せます。デプス ゲージの最も高い位置がファイリングゲージと一致しなければなりません。

PM1, RM2

（サービスマーキングが記された）タイストラップの後方突出部は、デプスゲージと同時に目立てされます。

RSC3、RMC3、PMC3、PMMC3

（サービス マーキングが記された）セーフティ ドライブ リンクの盛り上がり上部は、デプス ゲージと同時に目立てされます。

⚠ 盛り上がりが 3 段のセーフティ タイストラップの残りの部分およびセーフティ ドライブリンクの盛り上がりは、目立てしてはいけません。チェンソーがキックバックを起こす危険が高まります。

- 目立てが終了したら、チェンをよく洗浄し、ヤスリやグラインダーの切削分を除いて十分に潤滑油を塗布してください。
- 長時間使用しない場合は、チェンをきれいに洗浄し、潤滑油を塗布して保管してください。

目立工具（特殊アクセサリー）

チェンのピッチ		丸ヤスリ Ø		丸ヤスリ	ファイル ホルダー	ファイリング ゲージ	平ヤスリ	目立キット [1]
インチ	(mm)	mm	（インチ）	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号
1/4	(6.35)	4.0	(5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
3/8 P	(9.32)	4.0	(5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
0.325	(8.25)	4.8	(3/16)	5605 772 4806	5605 750 4328	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1028
3/8	(9.32)	5.2	(13/64)	5605 772 5206	5605 750 4329	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1029
0.404	(10.26)	5.5	(7/32)	5605 772 5506	5605 750 4330	1106 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1030

[1] 丸ヤスリ、平ヤスリ、ファイリング ゲージ付きファイル ホルダーで構成

整備表

次の整備間隔は通常の作業条件を対象としていることに注意してください。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合（非常にほこりの多い場所、樹脂分の多い樹木、熱帯樹など）は、それに応じて、表示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		始動前	作業終了後又は毎日点検	燃料給油時	毎週	毎月	12 ヵ月毎	故障の場合	損傷の場合	必要な場合
機械本体	目視検査（状態と漏れ）	X		X						
	掃除		X							
スロットル トリガー、トリガー インターロック、チョーク レバー、停止スイッチ、マスターコントロール （機種によって異なる）	作動検査	X		X						
チェンブレーキ	作動検査	X		X						
	点検はサービス店に依頼してください。[1)]									X
燃料タンク内のピックアップ ボディ / フィルター	点検					X				
	洗浄、フィルターの交換					X		X		
	交換						X		X	X
燃料タンク	掃除					X				
チェンオイルタンク	掃除					X				
チェン オイル	点検	X								
ソーチェン	点検、目立の状態を検査	X		X						
	ソーチェンの張りを点検	X		X						
	目立て									X
ガイドバー	点検（磨耗、損傷）	X								
	掃除、ガイドバーを裏返しにする									X
	バリを取る				X					
	交換								X	X
チェン スプロケット	点検				X					
エアー フィルター	掃除							X		X
	交換								X	

次の整備間隔は通常の作業条件を対象としていることに注意してください。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合（非常にほこりの多い場所、樹脂分の多い樹木、熱帯樹など）は、それに応じて、表示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		始動前	作業終了後又は毎日点検	燃料給油時	毎週	毎月	12 カ月毎	故障の場合	損傷の場合	必要な場合
防振部品	点検	X						X		
	交換はスチール サービス店に依頼してください。[1]								X	
冷気吸引開口部	掃除		X							
シリンダー フィン	掃除		X			X				
キャブレター	アイドリング調整の点検。チェンは回らないこと。	X		X						
	アイドリング速度を調整する									X
スパーク プラグ	電極ギャップの調整							X		
	100 運転時間ごとに交換									
すべてのスクリューとナット（調整スクリューを除く）[2]	締め直し									X
マフラーのスパーク アレスター スクリーン（取り付けられていない市場もあります）	点検							X		
	交換								X	
チェン キャッチャー	点検	X								
	交換								X	
安全ラベル	交換								X	

1) 当社では、本作業をスチール サービス店で実施されることをお勧めします

2) プロ用チェンソー（出力 3.4 kW 以上）では 10 ～ 20 時間使用後、シリンダー スクリューをしっかり締め直してください

磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリーの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

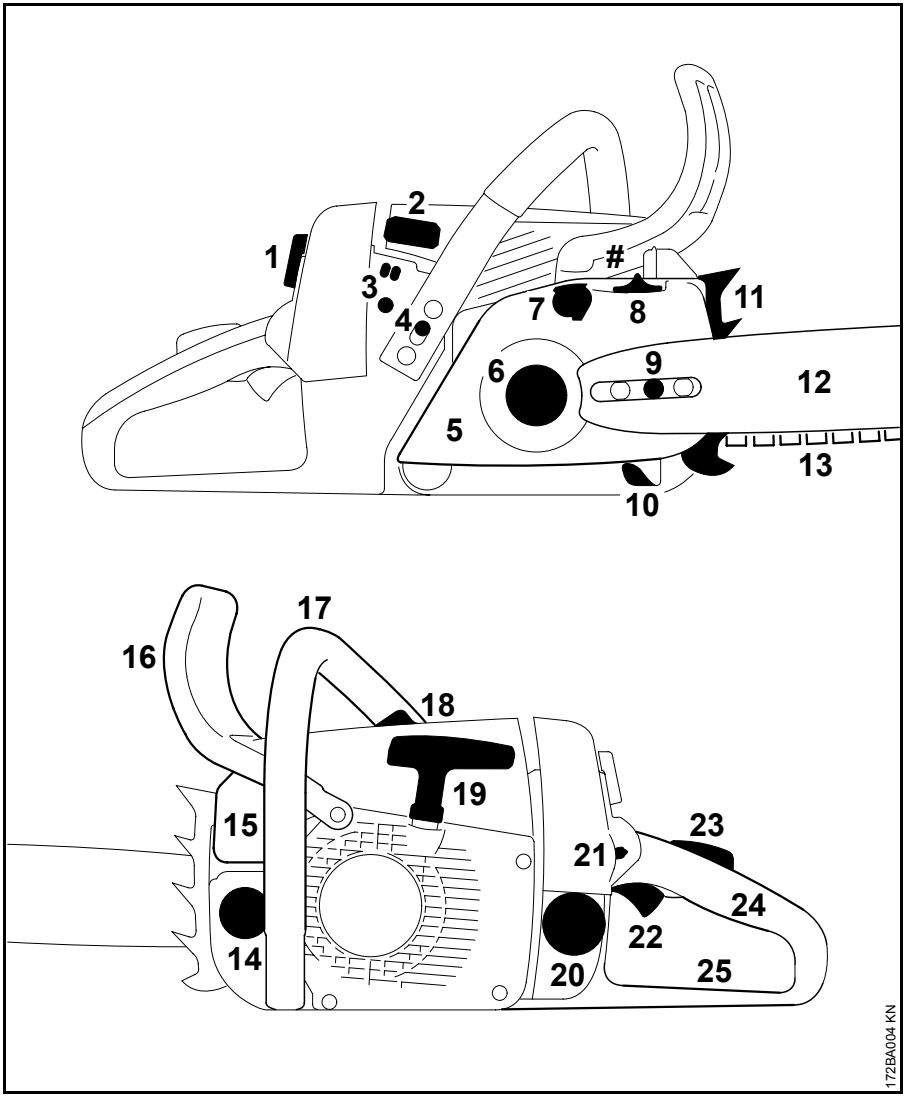
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備（例：エアー フィルター、燃料フィルター）、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除（エアー吸入スリット、シリンダー フィン）が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

磨耗部品

カットオフソーの部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- ソーチェン、ガイドバー
- 駆動部品（ クラッチ、クラッチ ドラム、チェン スプロケット）
- フィルター（エアー フィルター、オイル フィルター、燃料フィルター）
- リワインド スターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのコンポーネント

主要構成部品



1 キャブレター ボックス カバーのツイスト ロック
2 スパーク プラグ ブーツ
3 キャブレター調整スクリュー
4 ハンドル ヒーター スイッチ（装着機種）
5 チェン スプロケット カバー
6 チェン スプロケット
7 チェンブレーキ
8 クイック テンショナの調整ホイール（装着機種）
9 サイドチェン テンショナ（装着機種）
10 チェン キャッチャー
11 バンパー スパイク
12 ガイドバー
13 オイロマチック ソーチェン
14 オイルフィラー キャップ
15 マフラー（スパーク アレスティング スクリーン付きバージョン）
16 前ハンドガード
17 前ハンドル（ハンドルバー）
18 デコンプ バルブ（装着機種）
19 スターター グリップ
20 燃料タンク キャップ
21 マスター コントロール レバー
22 スロットル トリガー
23 スロットルトリガーインターロック
24 後ハンドル
25 後ハンドガード
機械番号

技術仕様

エンジン

スチール単気筒 2 サイクル エンジン

MS 260、MS 260 C

排気量：	50.2 cm^3
シリンダー径：	44.7 mm
ピストン ストローク：	32 mm
ISO 7293 によるエンジン出力：	2.6 kW (3.5 HP)、9,500 rpm 時
アイドリング回転数：	2,800 rpm
バーとチェン付きでの許容最高回転数	14,000 rpm

イグニッションシステム

回転数制御式エレクトロニックマグネト イグニッション

スパーク プラグ（雑音防止）：	Bosch WSR 6 F、NGK BPMR 7 A
電極ギャップ：	0.5 mm

燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量：	0.46 l

チェン オイル

全自動回転数制御ピストン式オイル ポンプ。手動オイル吐出量調整機能付き

オイルタンク容量：	0.29 l

重量

燃料無しの状態、バーとチェンを除く

MS 260:	4.8 kg
MS 260: ハンドル ヒーター付き：	5.0 kg
MS 260: ハンドル ヒーターと触媒コンバータ付き	5.2 kg
MS 260: C、クイック チェン テンショナー付き：	4.9 kg
MS 260: C、ハンドル ヒーターとクイックチェン テンショナ付き	5.0 kg

カッティング アタッチメント

ローローマチック ガイドバー

長さ (0.325″ ピッチ）	32、37、40、45 cm
溝幅	1.6 mm

0.325″ ソーチェン

ラピッド マイクロ コンフォート 3 (26 RMC3)	
ラピッド マイクロ コンフォート (26 RMC)	
ラピッド スーパー コンフォート (26 RSC)	
チェンのピッチ：	0.325″ (8.25 mm)
ドライブ リンク ゲージ：	1.6 mm

チェン スプロケット

0.325″、7 枚歯

音圧・騒音・振動数値

音圧・音響・振動数値は、同じ暴露時間でのアイドリング、全負荷、および最高定格回転が含まれます。

振動に関する指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、www.stihl.com/vib をご覧ください。

ISO 7182 による音圧レベル L_{peq}

MS 260:	99 dB(A)
MS 260 C:	99 dB(A)
MS 260 ハンドル ヒーターと触媒コンバータ付き	101 dB(A)

ISO 9207 による音響出力レベル L_{peq}

MS 260:	111 dB(A)
MS 260 C:	111 dB(A)
MS 260 ハンドル ヒーターと触媒コンバータ付き	111 dB(A)

ISO 7505 による振動加速度 $a_{hv,eq}$

ハンドル、左	3.6 m/s^2
ハンドル、右	4.1 m/s^4

特殊アクセサリー

- 丸ヤスリ付きファイル ホルダー
- ファイリング ゲージ
- ゲージ
- スチール潤滑グリース
- 給油用スチール フィラー ノズル。給油時にこぼしたり、入れすぎたりするのを回避します。
- チェンオイル用スチール フィラー ノズル。こぼしたり、入れすぎたりするのを回避します。

上記およびその他の特殊アクセサリーに関する最新の情報は、スチール製品販売店へお問い合わせください。

スペア パーツのご注文

お客様のチェンソーの機種、機械番号、およびガイドバーとソーチェンの部品番号を、下に準備したスペースにご記入ください。これは、次にご注文いただくときに便利です。

ガイドバー、ソーチェンは消耗部品です。これらの部品を注文するとき、型式、部品番号、部品名を明記してください。

機種

機械番号

ガイドバー部品番号

ソーチェン部品番号

整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理をすべて認定スチール サービス店に依頼されることをお勧めします。スチール サービス店では定期的にトレーニングを受け、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、STIHL®ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク ® が刻印されています。（小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。）

CE 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Badstr.115
71336 Waiblingen

は、下記の新型機械が

製品名：	チェンソー
メーカー名：	STIHL
型式：	MS 260: MS 260 C
シリーズ番号：	1121
排気量：	50.2 cm^3

指示書 98/37/EC、89/336/EEC、および 2000/14/EC の仕様に適合していることを証明します。

この製品は次の規格に準拠して開発、製造されました :EN ISO 11681-1、EN 61000-6-1、EN 55012。

音響出力レベルは、測定値並びに確保数値共に、2000/14/EC の補遺条項 V 規定に準拠した ISO 9207 に基づいています。

音響出力レベル測定値：

MS 260:	113 dB(A)
MS 260 C:	113 dB(A)
MS 260 触媒コンバータ付き	114 dB(A)

確保される音響出力レベル数値：

MS 260:	114 dB(A)
MS 260 C:	114 dB(A)
MS 260 触媒コンバータ付き	115 dB(A)

CE 型式検査は下記で行われました：

Deutsche Prüfstelle für Land- und Forsttechnik (DPLF)
Postfach 41 03 56
34114 Kassel

証明書番号：
K-EG- 2001/3390

技術資料の保管場所：

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

機械の製造年については、CE ラベルをご覧ください。

2008 年 3 月 10 日 Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Elsner

製品管理グループ部長

品質証明書

スチールの全製品は、最高の品質要求規準に適合しています。

スチール社の全製品は、製品の開発、素材の購入、製造、組立て、文書管理、顧客サービスにおいて、品質管理システム ISO 9001 の厳しい要求に適合していることを、独立した機関が証明しました。

0458-172-4321

japanisch

(J)

www.stihl.com